年報２０１０の発行にあたって

群馬県立自然史博物館は、平成 8 年の開館以来 15 年目を迎えました。本年、3 月 11 日に、東日本巨大地震が発生し、東北地方から関東地方の太平洋沿岸部を中心にかつてない甚大な被害をもたらしています。加えて福島第一原子力発電所が震災を受け、原子炉とその関連施設が損傷し多量の放射性物質が流失しています。この震災による死者・不明者数は 2 万 8 千人に迫ろうとしています。また、被災を受け避難生活を余儀なくされている方々も多数おり、3 月末日現在、群馬県に非難されている方は、3,164 名です。この地震による当館の損傷は、ごく軽微なものであり、翌日には第 37 回企画展のオープンを迎えることができました。その後の東京電力(株)による計画停電や電力不足にあわせ、開館時間の変更や館内の省エネを行っております。また、義援金箱の館内設置や被災者の無料観覧など復興支援に向けた取り組みも行い始めたところです。今後もこれらの取り組みを充実させるとともに、夢や希望を与える博物館運営に努めて参ります。

さて、昨年度は 2 つの企画展と 2 つの特別展を行いました。7 月から 11 月にかけて、ミュージアムパーク茨城県自然博物館を始め国内の多くの博物館や古生物学者のご協力をいただき、第 36 回企画展「石になったものの記録」を開催しました。日本初公開の世界最大級の三葉虫や白亜紀の巨大魚の全身骨格など多くの化石を展示し、化石とは何か、化石と私たちの暮らしとのつながりなど、化石とその研究からわかることを展示しました。23 年春から始まった第 37 回企画展「脳を学ぶ　脳で学ぶ」では、群馬大学医学部、日本光電を始め、脳に関わる多くの研究機関・医療機関・医療機器メーカーのご協力をいただき、脳の最先端医療や研究によって解き明かされた最新情報の展示を行いました。特別展では、生物多様性条約第 10 回締約国会議(COP10)に合わせ、そのパートナーシップ事業として特別展「ぐんまの自然とめぐみ　ー生物多様性を持続させるためにー」を 9 月から 10 月にかけて群馬県庁と当館で開催しました。また、写真家・飯島正広氏とキャノン(株)のご協力をいただき、自然のフォトギャラリー「飯島正広写真展『WILD ASIA ーアジアの野生王国へようこそー』」を 12 月から 1 月にかけて開催しました。

教育普及事業では、毎週土曜日に実施している「サイエンス サタデー」を始め、自然観察会、講演会、展示解説、ビデオ上映会など、のべ 12,354 回の事業を開催し、42,533 名の参加者を得ることができました。

群馬県北西部の長野原町を中心に行っている第 4 次の自然史調査は 3 年目の最終年に入り、調査とともに自然史調査報告書を発行しました。また、論文 16 編（原著論文 8、短報 4、資料 3、技術報告 1）からなる群馬県立自然史博物館研究報告第 15 号も発行しました。

限られた予算、人員で館の運営に努力していますが、それを側面で支えていただいているボランティアの方々には多方面にわたりお世話になっております。また、県内外の研究者、自治体関係者のご指導やご協力をいただいていることにも感謝しています。昨年度「魅力ある博物館を語る会」で各委員の方よりいただいたご示唆をもとに、より開かれた博物館として充実していくため、組織や運営の改善に努めて参りたいと思っております。

この度、平成 22 年度における事業の概要をまとめて年報として発行いたしました。ご高覧の上、今後の自然史博物館の運営につきましてご指導ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成 23 年 4 月

群馬県立自然史博物館

名誉館長　　長谷川　善和

Ⅰ　管理

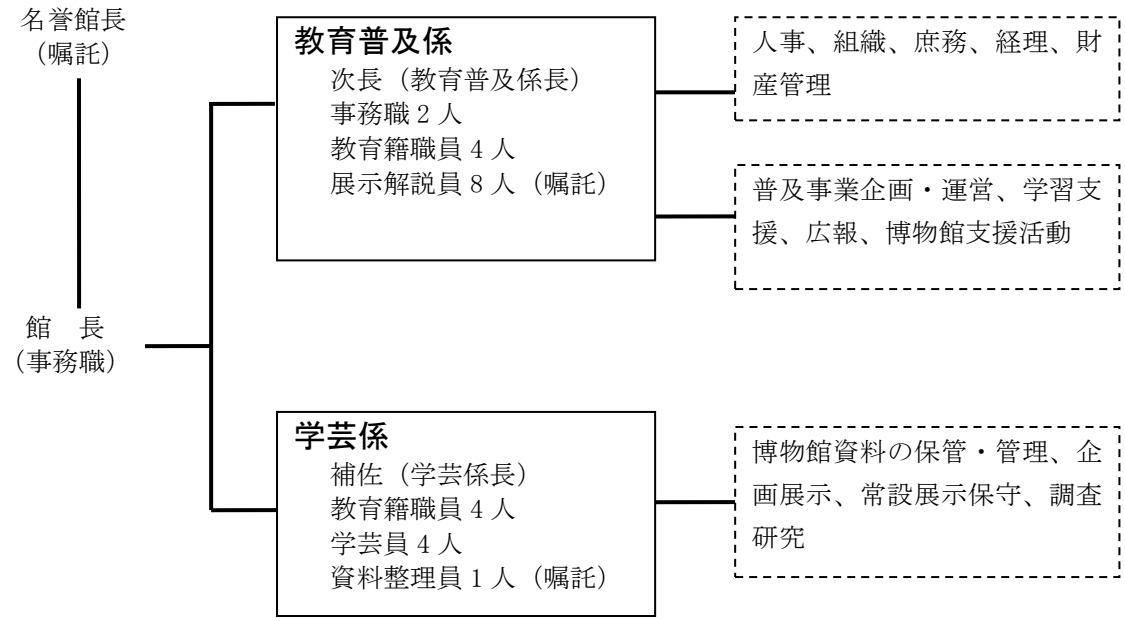
１　沿革

群馬県立自然史博物館の沿革は次のとおり。

昭和 32 年 3 月 12 日	「群馬県立博物館」として開館（群馬県富岡市一ノ宮 1353）
昭和 54 年 10 月 17 日	「群馬県立博物館」を廃止し、「群馬県立歴史博物館」として開館
昭和 57 年 7 月 16 日	「群馬県立歴史博物館」を廃止、「群馬県立自然科学資料館」として開館
昭和 63 年 12 月 1 日	「自然科学資料館整備拡充調査構想委員会」を設置（学識経験者 10 名、行政職 6 名）
平成 1 年 4 月 1 日	群馬県教育委員会社会教育課学習文化室に選任職員 1 名配置
平成 4 年 2 月 3 日	建築プロポーザルにて内井昭蔵建築設計事務所に建設基本設計を委託
平成 4 年 3 月 31 日	建築基本設計終了
平成 5 年 1 月 28 日	(株)丹青社と展示実施設計委託契約を締結 (財)日本科学技術振興財団と展示実施設計の監修業務の委託契約を締結
平成 5 年 7 月 31 日	建設実施設計終了
平成 5 年 8 月 31 日	展示実施設計終了
平成 6 年 6 月 30 日	建築工事等着工
平成 6 年 8 月 12 日	展示工事入札、(株)丹青社が落札
平成 7 年 4 月 1 日	長谷川善和氏（理学博士・横浜国立大学名誉教授）が参与に就任
平成 8 年 3 月 15 日	建築工事等竣工
平成 8 年 3 月 27 日	「群馬県立自然史博物館の設置及び管理に関する条例」を公布
平成 8 年 3 月 31 日	「群馬県立自然科学資料館」を廃止し、資料は自然史博物館に引き継ぐ 併せて群馬県歴史博物館所蔵の自然資料のほとんどを移管
平成 8 年 4 月 1 日	「群馬県立自然史博物館」発足（前橋市大友町庁舎３階） 職員 18 名（副館長、次長、総務課 3 名、教育普及課 3 名、学芸課 7 名） 非常勤嘱託 5 名 長谷川善和氏（理学博士・横浜国立大学名誉教授）が初代館長に就任
平成 8 年 5 月 1 日	建築ＪＶ側から群馬県に建物の引き渡し
平成 8 年 5 月 16 日	付帯ホール（愛称「かぶら文化ホール」）の管理運営にあたる財団法人かぶら文化ホールが設立許可
平成 8 年 5 月 27 日	大友町庁舎から富岡市の自然史博物館に移転
平成 8 年 5 月 31 日	財団法人かぶら文化ホールにホールの管理運営等を委託
平成 8 年 9 月 1 日	展示解説員（非常勤嘱託）8 名採用
平成 8 年 9 月 14 日	展示工事竣工
平成 8 年 10 月 21 日	開館記念式典
平成 8 年 10 月 22 日	「群馬県立自然史博物館」開館（一般公開） 第１回企画展「アルゼンチンの恐竜たち」開催
平成 14 年 1 月	開館５周年記念企画「ミュージアム・ポスター展」開催(1月4日~2月17日) 開館５周年記念講演会「ヒトと森と　ー森がヒトをはぐくむ」開催（1 月 26 日）講師：宮脇　昭氏（国際生態学センター研究所長）、河合雅雄氏（兵庫県立人と自然の博物館館長）
平成 14 年 6 月 9 日	入館者 100 万人達成
平成 18 年 7 月 15 日	開館 10 周年記念展「コアラ大陸オーストラリア　～ふしぎな動物たちの世界～」開催

平成 19 年 1 月 4 日　　開館 10 周年記念事業「自然史博物館のあゆみ展」開催
平成 20 年 8 月 8 日　　入館者 200 万人達成
平成 22 年 2 月　　正面玄関プロムナード路面改修
平成 22 年 3 月　　尾瀬シアター、トリケラトプス復元映像、機器及び映像更新

2 組織



3 事業体系

管理運営			人事、組織	教育普及係
			予算、経理	
			施設管理	
			庶務	
事業	展示		常設展示保守、改修	学芸係
			企画展示	
	普及事業	一般対象	展示解説	教育普及係
			ファミリー自然観察会	
			講演会	
			自然史講座	
			天体観望会	
			ミュージアムナイトツアー	
			バックヤードツアー	
			サイエンス･サタデー	
			チャレンジ講座	
		小中学生対象	自然史博物館探検隊	教育普及係
			子どもミュージアムスクール	
		高校生対象	高校生学芸員	教育普及係
	学校教育支援		館内授業	教育普及係
			博物館体験学習	
			教育用資料貸出	

		博物館実習	学芸係
事業	調査研究	長野原・東吾妻地区生物調査	学芸係
		山中層群の古生物学的研究	
		研究報告編集	
	情報システム		全体
	資料収集・保存・管理	採集	学芸係
		製作委託・購入	
		寄贈・寄託・移管	
		貸出・借用管理	
		文献・図書管理	
	博物館支援活動・広報	ボランティア	教育普及係
		友の会	
		視察受入	
		広報	
		相談指導	
	自治体等との連携	調査	全体
		相談指導	

4 管理運営業務

(1) 入館者数の状況

平成２２年度の入館者数は、148,697人（前年対比91%）と、前年に比べ約1万6千人少なかった。その大きな要因としては、例年、夏休み期間中は親子連れでの来館が多いが、昨年は猛暑の影響で外出を控える人が多くなり、夏の期間中の入館者が前年に比べ、約１万人も少なかったことがあげられる。

しかしながら、本県の観光デステネーション・キャンペーン（ＤＣ）が、23年7～9月に開催されることもあり、新たな観光客の獲得に努めた結果、千葉県から「赤とんぼツアー」を誘致できたことなど、一定の成果も得られた。

今後は、教育施設としてだけでなく、観光施設としても大きな期待が寄せられていることから、幅広い年齢層の観光客にも対応できるような施設運営が必要となっている。

なお、開館以来の累計の入館者数は、2,398,368人、１日平均の入館者数は560人であり、年度別の入館者数の推移は次のとおりである。（詳細は66ページ以降を参照のこと）

入館者数の推移

年度	Ｈ８	Ｈ９	Ｈ１０	Ｈ１１	Ｈ１２	Ｈ１３	Ｈ１４	Ｈ１５
開館日数	132	301	304	303	301	303	301	298
入館者数	120,712	207,688	165,071	150,211	156,633	159,416	166,989	171,697
１日平均	914	690	543	496	520	526	555	576

年度	Ｈ１６	Ｈ１７	Ｈ１８	Ｈ１９	Ｈ２０	Ｈ２１	Ｈ２２	累計
開館日数	292	292	293	292	291	290	288	4,281
入館者数	160,456	153,613	166,629	161,626	146,170	162,760	148,697	2,398,368
１日平均	550	526	569	554	502	561	516	560

(2)歳入歳出決算の状況

歳入　　単位（千円）

区　　分	金　　額	内　　容
博物館入館料	３３，５２０	観覧料
施設使用料	５４９	ミュージアムショップ
雑　　入	２，３４２	
計	３６，４１１	

歳出

事　業　名	金　　額	内　　容
館　運　営	２０９，６８６	館の維持管理、事業運営等
博　物　展　示	４１，３３２	常設展示メンテナンス、企画展
教育普及活動	２，５４３	観察会等教育普及事業
調　査　研　究	１１，５６６	フィールド調査、学会参加
計	２６５，１２７	

(3)「魅力ある博物館を語る会」の開催

①設置の経緯

本県では、県の財政状況が一段と厳しい中、公共施設のあり方を抜本的に見直す観点から、「群馬県公共施設のあり方検討委員会」が平成 20 年 3 月に設置され、自然史博物館を含む 15 施設を対象に検討が行われ、平成 21 年 10 月には県あてに最終報告書が提出された。

この報告書を受け、具体的な見直しを行う機関として、美術館や博物館を対象に「県民の意見を聞く会」が設置されることになり、当博物館においては「魅力ある博物館を語る会」が平成 22 年 7 月に設置されて、博物館運営のあり方について検討が行われたものである。

②会議開催

会議は4回開催され、各委員から提出された意見をまとめた報告書が平成23年1月に県（文化振興課）あてに提出された。

区　分	日　　時	場　　所
第１回	平成22年 8月 6日(金)	自然史博物館中会議室
第２回	平成22年 9月30日(木)	自然史博物館中会議室
第３回	平成22年11月 9日(木)	自然史博物館中会議室
第４回	平成22年12月21日(火)	自然史博物館中会議室

③報告書の概要

ア 運営協議会を設置して博物館の基本運営方針（長期的計画、収蔵庫等施設整備計画等を含む）を策定する。

イ 評価委員会を設置して外部からの評価を受けて運営改善に取り組む。

ウ 博物館の目的や事業を積極的に広報するとともに、自然に関する社会的なニーズに応えて博物館から情報発信を行っていく。

エ 県や市町村教育委員会と連携し、学校教育への支援を行うとともに、社会教育施設、文化施設、観光施設としての役割に応えていく。

オ 地域の観光施設・文化施設との連携、地元市町村との連携、県外博物館との交流や事業連携等、関係機関や関係施設との連携を強化する。

④委員

氏　名	職　業　等	区　分
里 見　哲 夫（座長）	群馬県自然環境調査研究会顧問	地域活動者
小 池　啓 一	群馬大学教育学部長	専門家
池 内　君 雄	松井田南中学校長	教育関係者
寺 澤　康 行	前（財）群馬県観光国際協会専務理事	観光関係者
田 中　幸 彦	上毛新聞社文化生活部長	広報関係者
簔 輪　欣 房	白鴎大学教育学部非常勤講師	公募
角 田　寛 子	博物館ボランティア	公募
駒 井　悟	安中市産業部長	市町村
横 尾　繁 雄 (H22.8.6～H22.9.30)	富岡市教育委員会前教育部長	市町村教育委員会
須 藤　良 夫 (H22.10.1～H22.12.28)	富岡市教育委員会教育部長	市町村教育委員会
合　計　　9　名		

（4）ESCO事業の取り組み

本県では、省エネルギーの推進及び環境負荷の低減、また、光熱水費等の効果的な削減を図るため、県有施設にＥＳＣＯ（Ｅnergy　Ｓervice　Ｃompany）事業の導入を進めている。

Ⅱ 事業の概要

1 展示

(1) 常設展示

県民が自然の生い立ちや群馬県の多様で豊かな自然環境などへの理解を深め、自然に親しみながら学習する施設とするため、展示に際して、①資料についてはできる限り実物を揃える ②資料のケース内の展示を極力減らして身近に展示し、実物を実感してもらう ③資料を観覧するだけでなく、資料によっては直接手で触れたり、随所に映像や体験コーナーを設けたり、参加・体験型の展示を心がける、以上の3点に配意している。

展示の保守にあたっては、通常年どおり、2回の展示全体（Ａ～Ｅコーナー）のメンテナンスと電球類の交換を行った。

常設展示は、下記の5つのコーナーに区分されている。

① 地球の時代（Ａコーナー）

誕生から 46 億年を経て現在に至る地球の発達、すなわち大地が形成される過程、そして地球における生命誕生とその生命が様々な環境に適応し多様化していく過程の二つを軸として、その中に群馬県の地質や化石を絡めて、生命の進化史を群馬県の自然史と対比しながら世界的・日本的規模で展示している。本コーナーの展示は、今の自然環境の基盤となる地球（太陽系）の形成と生命の誕生、ならびに先カンブリア時代の発展を紹介する「水の惑星と生命の誕生」にはじまり、「生命を育てた太古の海」（古生代）、「恐竜の時代」（中生代）、「哺乳類の時代」（新生代古第三紀・新第三紀）、「人類の時代」（新生代第四紀）の５つに分けられる。

展示の中心は大型恐竜の全身骨格標本で、地球上で最大の生物を代表するブラキオサウルス（全身骨格が復元された恐竜としては最も背が高い）、カマラサウルス（世界で唯一の組み立てられたメスの全身骨格）、マメンキサウルスといった世界三大大陸の恐竜（竜脚類）として展示している。またボーンベッド展示では、アメリカで発見されたトリケラトプスの全身骨格化石（実物）の産出した状況をガラスの床下に復元し、俯瞰から観察できる。

平成 22 年度に実施した展示更新や補修の関係については、第 36 回企画展で展示したコレニア標本を企画展終了後に常設展の６面マルチ映像前に移動して再展示した。「恐竜の時代」で「触ってみよう」として展示している標本３点の下に敷いているウレタンマットが劣化したので、これらを新しいものに交換した。またＡコーナー全体を通して、研究の進展によって分類学的位置等が変更されたものなどの標本の新規ラベル 10 点、パネル 2 点を新たに作成し、既存のものと交換（一部は追加）した。展示機器の保守点検については、A-1 の大型拡散霧箱について年２回、A-3 の動刻（ロボット関係：ティランノサウルス、ガリミムスなど）を年４回実施した。

（展示資料数 1,094 点）

② 群馬の自然と環境（Ｂコーナー）

多様で豊かな群馬の自然環境を低湿地から亜高山帯まで、また利根川や尾瀬など代表的な地域に分けてジオラマ、標本、映像等で紹介している。特に山地帯の展示ではブナ林、亜高山帯はシラビソーオオシラビソ林、丘陵帯はクヌギーコナラ林、低湿地は茂林寺沼の周辺の植物、尾瀬では湿原植物を、それぞれジオラマで再現している。また、利根川では3つの水槽に上・中・下流に代表的な魚を生体で展示している。また群馬県水産学習館より分与された魚類の成体展示を追加した．水槽展示のメンテナンスは年22回実施している。それぞれの場所ごとに生息する哺乳類や鳥類などの剥製やレプリカ、ア

クリル標本なども数多く展示している。

また尾瀬シアターは、昨年度より180インチのプロジェクター投影形式へと設備を改修した。通常の上映番組は、従来の映像に新規撮影映像を加え、日本を代表する尾瀬の湿原をミズバショウの妖精ミズビーが案内するものとなっている。

（展示資料数1,355点）

③　ダーウィンの部屋（Ｃコーナー）

老博物学者のロボットが生物の進化について説明する。展示室内は、博物学者の書斎や倉庫、実験室をイメージし、数多くの標本を間近に見ながら、資料に触れたり、機器を操作したりしながら観察できる参加体験型の展示となっている。平成12年度に寄贈されたダーウィンの直筆書簡と顕微鏡を展示している。また、動刻（ロボット）については、保守点検を年4回実施した。恐竜の骨格復元体験展示は、修復不可能な破損状態となったため、ハンズオン展示台へと改修した。ハンズオン資料として，眼球状片麻岩，恐竜の足あとを設置した．また，実験室では顕微鏡でミクロの世界に挑戦のコーナーを新規に設置し，私が見つけた自然のリニューアルも行った．またダーウィンの部屋内のモニタを液晶モニタに更新した。

（展示資料数545点）

④　自然界におけるヒト（Ｄコーナー）

このコーナーは、「1 動物としてのヒト」「2 ヒトの起源と進化」「3 ヒトの特徴」という3つの展示で構成されている。展示のコンセプトは、等身大立体教科書であり、教科書等で縮小され、平面的に紹介されてきた有名な図を、実物標本や模型・複製等で再現している。

（展示資料数364点）

⑤　かけがえのない地球（Ｅコーナー）

人間の生活が地球全体に及ぼす影響を紹介し、環境問題について考える機会を与える展示である。エコボール、ドードーやトキなど絶滅、または絶滅の危機にある動物の紹介や、森林の保水作用を説明する模型、環境クイズの映像などを展示している。

（展示資料数29点）

⑵　企画展示

①第35回企画展「むし　虫　ウォッチング」

趣旨、内容、その他の事項については平成 21 年度年報参照。

開催期間：平成22年3月13日（土）～5月5日（水）開催日数47日
（内平成21年度開催16日）

入館者数：20,647人　（会期中全入館者数29,045人）

② 第36回企画展「石になったものの記録」

趣旨：　化石に関する展示は、当館を含む各地の自然系博物館の中でも人気が高い。恐竜やアンモナイトなどの古生物は、書籍やインターネットなどを通じて子どもたちにその存在が高く認知されている。また本館のある富岡・安中地域の子どもたちは、身近な遊びの一つとして化石を探している。この様に、化石（あるいは古生物）は、子どもたちにとってかなり身近な存在である。一方、石油や石炭などの燃料として用いる資源も太古の生物の遺骸が続成作用を経て形成されたもの、つまり一種の化石であり、それらによって私たちの生活基盤も支えられている。この様に、化石は私たちの生活とも密接な関わりがあるにも関

わらず、それらに生物進化や環境変遷の様々な記録が秘められていることは十分に理解されていない。

本企画展では、「化石とは何だろう」「化石はどうしてできるのだろう」「化石から何がわかるのだろう」といった、一般の人々が化石に対して抱きがちな基礎的な疑問に関して、来館者が通覧することで一定の理解を得られる展示を構成した。さらに、展示された多種多様な化石を見ることで、地球が育んできた生物多様性の歴史の一端についても理解できるものとするとともに、小・中学校において地層や化石に関する学習をする時の「実物資料集」として活用できるように配慮した。

内容：・ようこそ！かせきの世界へ

後述するイラスト展、アンモナイトや三葉虫などの代表的な化石標本をエントランスに展示することで、来館者の化石に対する興味や関心を高めた。常設展示出口付近では、既存のハイギョ飼育展示をそのまま利用し、その他の化石・現生標本と共に生きている化石に関する展示にした。また、後半の展示では、企画展ゲートそばに設置したガラスケース１台を用いて、ニッポノサウルスの実物標本（北海道大学総合博物館所蔵）を展示した。

・かせきがあるくらし

石炭、石油、鉄鉱石、石灰石、珪藻土などの私たちの生活を支えている様々な化石からなる資源を紹介すると共に、鉱物によって置換されたために、宝石的な価値がある化石、あるいは宝飾品に加工された化石があることを紹介した。これらの展示にあたっては、県内外の多くの企業にお願いし、展示用のサンプルや各種資料を提供して頂いた。特に琥珀については、久慈琥珀博物館等の協力により、久慈産の虫入りコハクなど様々な標本を展示した。

・かせき大集合！

展示の前半部分では、三葉虫、アンモナイト、恐竜、ゾウの仲間などを中心に、古生代以降（顕生累代）の各地質時代を代表する化石（示準化石）と、それらの意味を紹介した。ここでは、カナダ・マニトバ博物館の協力で作製することができた世界最大の三葉虫（キャスト）をはじめ、三葉虫化石の大型プレートや大型アンモナイト、アンモナイトの生体復元などを展示した。ティランノサウルスの頭骨については、常設展示から運搬して展示し、企画展後半にはギガノトサウルスと対比して展示することになった。

展示の後半部分では、様々な化石を分類群ごとに展示して、生物多様性の歴史の一端を紹介した。また、石田吉明氏の協力により、クモヒトデ化石を例にして、化石の埋没過程についても紹介した。

・かせきってなんだろう

ここでは最初に化石の定義や地層との関係、その形成過程、偽化石などについて紹介した。次の示相化石の展示では、チョモランマ山頂産のウミユリ化石（ミュージアム鉱研・地球の宝石箱所蔵）など、化石とそれが示す環境がわかるように展示した。さらに微化石については、地元企業のパリノ・サーヴェイ㈱や国内の多数の研究者の協力で、実際の微化石プレパラート、３Ｄ拡大モデルを観察できるようにした。その他には、県内産化石や高校生学芸員の活動、化石の採集や整理の方法の一端を紹介する展示や、国内アーティスト５名の作品展示を中心として、古生物の復元について紹介し

た。ここでは今回、アンモナイト復元パズル２種類（２Ｄ版・３Ｄ版）を作成して、来館者が化石の復元を模擬体験できるようにした。

展示点数：約650点
期　　間：平成22年7月17日(土)～11月21日(日) 開催日数113日
入館者数：76,727人
関連事業：オープニングセレモニー
日　時：7月17日（土）9:40～10:30
会　場：企画展会場、エントランス、学習室等
招待者：近隣市町村（富岡市、下仁田町、南牧村、甘楽町）教育長、
富岡市立妙義小学校児童５・６年生とその保護者、
自然史博物館友の会役員、企画展協力者、
セレモニー参加希望者（一般公募20名）
イラスト展「復元された化石～ニュートンオリジナルイラスト展」
日　時：7月17日～11月21日
会　場：博物館エントランス（7月17日～9月20日）、
企画展示室内（9月23日～11月21日）
概　要：ニュートンプレス社の好意により、同社発行のニュートンムック販売促進イベントの一環として、雑誌ニュートンで連載されたパレオントグラフィ掲載用に作製された古生物復元イラスト約50点を展示した。
講演会「まとった鎧のひみつ～古生代の海の節足動物、三葉虫～」
日　時：7月25日（日）13:30～15:30
会　場：学習室
講　師：静岡大学理学部　講師　鈴木雄太郎
参加者：46人
講演会「化石研究うちあけ話」
日　時：11月3日（水・祝）13:30～15:30
会　場：学習室
講　師：当館名誉館長　長谷川善和
参加者：45人
自然教室「三葉虫をしらべよう」
日　時：8月22日（日）一回目10:30～12:00、二回目13:30～15:00
会　場：実験室
講　師：京都大学総合博物館　館長（教授）　大野照文
参加者：41人（一回目21人、二回目20人）
自然教室「恐竜時代のコハクでストラップをつくろう」
日　時：9月23日（木・祝）13:30～15:30
会　場：実験室
講　師：館職員
参加者：21人
自然教室「恐竜時代のコハクでストラップをつくろう」
日　時：11月14日（日）一回目10:00～12:00、二回目13:30～15:30
会　場：実験室

講　師：館職員
参加者：60人（一回目30人、二回目30人）

※　これらの関連事業、ならびに企画展と密接に関係した館イベント（例：博物館探検隊）の参加者（イラスト展、サイエンスサタデー、ビデオ上映会を除く）には、本企画展の資料借用先の一つである釧路コールマイン株式会社から提供していただいた釧路産石炭標本一人あたり一点を贈呈した。

実施設計：中村展設株式会社
展示施工：株式会社ウチダテクノ
印 刷 物：杉浦印刷株式会社
そ の 他：広報用として、ポスター（B2判、４色カラー・3,000部）を作成した。リーフレットは前半用（57,000部）、後半用（53,000部）の２種類を作成した。広報活動では、ぐんま昆虫の森をはじめ近隣の自然史系博物館や首都圏で開催された恐竜展などの資料貸出先でのリーフレット配布にも力を入れた。
配布・販売用としては、図録（1,000部）とポストカード4種（三葉虫[ポスターデザインに準拠]、コハク中の昆虫、アンモナイト置換化石、パキケファロサウルス頭骨の4種・各1,000枚）を作成した。また、後半からの新展示標本の紹介（30,000部）を作成し、入館者に配布した。その他に主に小学生向けとしたのワークシート６種を館内で作成し、展示を見学する際の参考となるようにした。

③ 第37回企画展「脳を学ぶ 脳で学ぶ」

趣旨：本企画展では，わたしたちが日々を送るために欠かせない器官・脳について取り上げた。脳がどのように働いているのか、最先端医療や科学によって解き明かされる「脳」の最新情報を、体感しながら学べる展示として来館者に提供することを目的とした。

内容：１．比べてみよう恐竜とヒトの脳：大型恐竜の頭部画像と脳幹キャスト、ヒトの頭骨と脳模型を展示し、アイキャッチとした.
２．錯視：展示の導入として、脳に対して来館者に興味を持っていただくことを目的に、視覚に関する錯覚：錯視画像、立体錯視（飛び出すティランノサウルス，立体キュービックなど），錯視動画を展示した。
３．脳内探検：脳の構造、機能、視覚、ニューロンのはたらきなどを体験型展示によって紹介した.
４．　脳の研究史：脳の研究の歴史について、パネルで紹介した.
５．脳と身体：脳と身体の関係性について、体験型展示によって紹介した。
６．脳の発育と老化：体験型展示として，リバーサルミラー，バイノーラル音源，モスキート音，スキップバックレコーダーを導入．脳の成長と加齢について、ヒト交連骨格（胎児～成人まで）、交連骨格の年齢にあわせた脳模型（（株）エヌ・ティー・エス提供）による脳の重さ体験、脳のしくみ（動画）などを用いて紹介した。
7.脳と病：アルコール中毒、薬物中毒、認知症、アルツハイマー、脳腫瘍、くも膜下出血、動脈瘤破裂など脳に関する様々な症例について、脳 CT・MRI 画像（神奈川歯科大学提供）、SPECT 画像（山王 PET 動脈瘤手術動画

（（独）高崎総合医療センター提供），動脈瘤の 3D 出力模型（（株）エヌ・ティー・エス提供），脳血管縫合モデル（函館新都市病院，原島広至氏，中橋 望氏提供）などを用いて紹介した。

８．脳のある動物、ない動物：脳とは何か、現生には脳のある動物とない動物が存在することを標本に基づき紹介した。カミツキガメ，ツキノワグマなどのＣＴ画像アニメーション（木村動物病院提供），魚類の神経染色透明標本（原島広至氏提供）など多く展示した。また、麻布大学よりアフリカゾウの頭骨と脳，アリクイの脳，ウマの脳血管プラスティネーションなどの標本も借用して展示した。

９.脳の起源と進化：脳の進化について、標本と脳拡大模型により紹介した.

10. Let`s　体感：脳パズル，DNA パズル，脳年齢診断，音楽と脳，オペ室体感など，体感型の展示を設置した．音楽と脳では，ロック，ポップス，クラシックなど小井戸 学氏主催の舞恋人によるオリジナル音源を再生し，ヒトの脳がどのように音楽に反応するか体感するコーナーを設置した．オペ室には，脳波計，心電図（日本光電提供）を設置し，背景にはほぼ実物大の手術室の画像（函館新都市病院，（株）エヌ・ティー・エス提供）を張り，脳血管バイパス手術の動画（函館新都市病院提供）を流すとともに，リアル感を出すために，着用できる手術着（（株）ホギ・メディカル，函館新都市病院提供）を提供し，記念撮影ができる場とした.

展示点数：約 200 点

期　　間：平成 23 年 3 月 12 日(土)～5 月 15 日(月・祝日) 開催日数 15 日

入館者数： 3,696 人(平成 23 年 3 月 31 日までの入館者数)

関連事業：ボランティア研修「鳥の脳を観察しよう」

日　時：3 月 12 日(日)　 13:30～15:00

会　場：実験室

講　師：館職員

参加者：14 人

講演会　「中学生にもわかる！最新脳科学」

日　時：3 月 27 日(日)　 13:30～15:30

会　場：学習室

講　師：都筑馨介（文教大学　教授）

参加者： 94 人

実施設計：汎企画 21

展示施工：汎企画 21

そ の 他：UNCHIKU SHEET（13 SHEET､各 8000 部）を作成・配布した。

錯視のペーパークラフト､クリアフォルダを作成・販売した。

(3)　特別展

①　ぐんまの自然とめぐみ

趣旨：平成 22 年 10 月名古屋市で開催された「生物多様性条約第 10 回締約国会議(COP10)」を控え、生物多様性保全における自然と人との適切な関わりの重要性が、改めて認識されるようになってきた。生物多様性条約は、多様な価値を有する生物多様性を「生態系の多様性」「種の多様性」「遺伝子の多様性」の３つのレベルで定義し、これらを「生物資源の持続可能な利用」の視点から保全するこ

とを目的の一つとしている。この流れを受け、県民の生物多様性保全に対する関心は10月に向け徐々に高まると考えられた。

そこで、この機会を捉え本県の生物多様性の変遷と現状を展示や講演会で紹介することで、県民の生物多様性保全への情報ニーズに応えるとともに保全への認識を高める事業を実施した。なお、展示のキーワードを「生態系サービス」、「オーバーユース」、「アンダーユース」と「外来種」とし、自然と人との適切な関わりをメインテーマとして行った。

内容：・「生物多様性って何？」（解説パネル）
・「ぐんまの生物多様性」（剥製や植物レプリカ等の標本、解説パネル）
・「ぐんまの野生動物の保護・保全活動の取組」（標本、解説パネル、映像、調査報告書、調査用具）
・「高校生たちの自然環境調査と保全活動の取組」（展示パネル、尾瀬高校・安中総合学園高校・渋川女子高校・下仁田高校・前橋高校）
・「自然と触れ合おう！自然に親しもう！」（展示パネル）
・「COP10紹介」（解説パネル）

展示点数：約901点　　パネル・写真点数90点

期　間１：広報展示（県民ホール）
平成22年9月11日(土)～15日（水）開催日数5日

入場者数：1,837人

期　間２：生物多様性展示（自然史博物館常設展示室・エントランス）
平成22年9月23日(土)～10月31日（水）開催日数34日

入館者数：25,609人

関連事業：連続講座　　会場：各回とも学習室

第1回講演会「今、なぜ、生物多様性か？」
日　時：10月2日(土)13:30～15:30
講　師：五箇　公一
（国立環境研究所　環境省外来生物プロジェクトリーダー）
参加者：33人

第2回講演会「ぐんまの生物多様性の現状『ぐんまの魚類と鳥類』」
日　時：10月9日(土) 13:30～15:00
講　師：斉藤　裕也（ヤリタナゴ調査会　代表）
浅川千佳夫（日本野鳥の会群馬　代表）
参加者：32人

第3回講演会「ぐんまの生物多様性の現状『ぐんまのツキノワグマ』」
日　時：10月16日(土) 13:30～15:00
講　師：姉崎智子（自然史博物館）、原田林太郎（尾瀬保護財団）
参加者：30人

第4回講演会「ぐんまの生物多様性の現状『所変われば植物変わる』」
日　時：10月23日(土) 13:30～15:00
講　師：青木雅夫（館林市つつじ研究所長）
大森威宏（自然史博物館）
参加者：24人

第5回講演会「なぜ？昆虫はこれほど種類が多いのかー昆虫の多様性ー」
日　時：10月30日(土) 13:30～15:30
講　師：矢島 稔（群馬県立ぐんま昆虫の森園長）

参加者：42 人

関連事業：自然観察会

第 1 回観察会「いのちを育む森林」

日　時：6 月 27 日

会　場：沼田市玉原高原

講　師：小林敏夫、他 3 名（利根沼田自然を愛する会）

参加者：10 人

第 2 回観察会「里山で自然との共生を考える」

日　時：10 月 17 日

会　場：高崎市観音山丘陵

講　師：吉井広始（群馬県自然環境調査研究会会員）

大森威宏（自然史博物館）

参加者：7 人

印刷物等：群馬の生物多様性解説パンフレット（A4 サイズ、4 ページ）　5,000 枚

特別展広報用リーフレット（A4 サイズ、2 ページ）　20,000 枚

生物多様性学習ワークシート（A4 サイズ、1 ページ、3 種類）各 200 枚

② 自然のフォトギャラリー

飯島正広写真展「WILD ASIA　ーアジアの野生王国へようこそー」

趣旨：自然の風景や動植物の写真を撮影する県民や鑑賞する県民は少なくない。しかし、当館は博物館であるがゆえ実物標本や科学的データを用いて、自然の生い立ちや群馬の豊かな自然環境に関する県民の理解を深める展示を行ってきていた。この特別展示は、群馬県みなかみ町に在住する著名な写真家・動物映像作家である飯島正広氏の写真と映像をメインに展示を行ったものである。一流の写真家によって捉えたれた動物の一瞬の姿は、観る者に画像に秘められた自然の真理や摂理を訴える力があり、写真を通して動物の生態や自然の神秘や合理性などを感じていただくことを目的とした。

これは、当館の目的である「豊かな自然環境に関する県民の理解を深める」に合致するとともに、芸術を楽しむ新たな顧客層を切り開くものと考えた。また、この企画を来館者の少ない冬期に開催することで、落ち着いた雰囲気の中、展示を楽しめる機会を提供し、来館者増を図ることも目的とした。

展示点数：写真 77 点、動画 1 点、剥製 4 点、解説パネル 2 点、計 84 点

期　間：平成 22 年 12 月 10 日(金)～平成 23 年 1 月 30 日(日)　開催日数 30 日

入場者数：8,640 人

関連事業：講演会「WILD ASIA　ーアジアの野生王国へようこそー」

日　時：1 月 8 日(土)13:30～15:30

会　場：当館学習室

講　師：飯島正広（写真家・動物映像作家）

参加者：50 人

(4) ミニ展示

①「吉井で発見！新属新種の化石クジラ」

高崎市吉井町より発見されたクジラ類化石を新属新種*Joumocetus shimizui*として記載した論文が出版された．また、2007年には5月10日が「地質の日」として新たに制定

されており、各地の博物館で「地質の日」記念事業が開催されている。そこで，平成22年度の「地質の日」記念事業として上記特別展示を実施した。

展示会場　自然史博物館エントランス（常設展示室入口・6 面マルチ手前）
展示期間　平成 22（2010）年 4 月 16 日（金）～5 月 9 日（日）
展示点数：標本類一式、パネル等 4 点

②特別展示「日本にもオオヤマネコがいた！」

当館の長谷川善和名誉館長を中心とする研究によって、日本の遺跡や洞くつで見つかっているオオヤマネコの獣骨がまとめられ、その論文が公表予定となった。この研究のために名誉館長の元にオオヤマネコの獣骨が集まったが、これだけの資料を今後集めることは容易ではないことから、特別展示「日本にもオオヤマネコがいた！」として、これらの獣骨を展示し、群馬をはじめとする日本の自然環境と私たち日本人との過去のつながりについて来館者に紹介した。

展示会場：自然史博物館エントランス（常設展示室入口・6 面マルチ手前）
開催期間：平成 23（2011）年 3 月 5 日（土）～3 月 13 日（日）
展示点数：日本産オオヤマネコ獣骨一式、産地・産出年代のパネル 1 点、
　　展示サイン 1 点

(5)　共催展示

①「科学する心」を見つけよう　写真展

子どもが生活や遊びの中で気づき、感動や探求した場面を、保護者が撮影した写真 60 点を展示した。

共　　催：（財）ソニー教育財団
展示会場：自然史博物館企画展示室前の通路
開催期間：平成 22 年 12 月 10 日～平成 23 年 1 月 30 日（開催日数 66 日）
入館者数：8,640 人

2　教育普及

(1)　教育普及事業

① 展示解説

常設展示室並びに企画展示室の解説は、時間を決めて行う「定時解説」と来館者の質問にその場で応える「随時解説」を実施した。「定時解説」は、常設展示室内を、Ａコーナー(地球の時代)、Ｂコーナー(群馬の自然と環境)、2 階(ダーウィンの部屋、自然界におけるヒト、かけがえのない地球)の 3 つに区分し、それぞれの定時解説時間は 30 分で 1 日 2 回実施した。企画展開催中は、企画展の定時解説（30 分）を加えて行った。また、学校等の団体を対象に「スポット解説」を実施した。スポット解説は、引率者と事前の打ち合わせを行い、特定の展示資料について 10 分程度の解説を行った。

定時解説・随時解説年間記録表

月	開館日数	常設展定時解説参加者	企画展定時解説参加者	定時解説参加者	一日平均	随時解説回数	随時解説参加者
4	26	145	46	191	7.3	866	1893
5	25	132	28	160	6.4	1185	2709
6	19	77		77	4.1	629	1397
7	27	283	27	310	11.5	998	2177

8	30	211	93	304	10.1	1653	3790
9	25	142	34	176	7.0	839	1933
10	27	140	33	173	6.4	1476	3514
11	25	101	44	145	5.8	803	1815
12	21	28		28	1.3	459	948
1	17	74		74	4.4	544	1091
2	21	145		145	6.9	1035	2432
3	25	122	54	176	7.0	928	1985

スポット解説

内　　容	団体数	内　　訳
カマラサウルス	62	小学校 58　　特別支援学校 2　　その他 2
尾瀬	9	小学校 4　　中学校 3　　その他 2
アフリカにすむ動物	2	小学校 2
飛ぶタネのおはなし	2	小学校 2
絶滅に瀕している動物	5	小学校 3　　特別支援学校 2
幼児のための展示解説	8	5才児用 6　　3､4才児用 2

展示解説の充実に向け、展示解説員の研修を以下の通り実施した。

・接遇研修　6 月 24 日
・他館視察　6 月 29 日　茨城県自然博物館
・常設展定時解説研修　2 月 9､10､18､23､24､25 日
・企画展研修　6 月 24 日　7 月 14､27､29 日　3 月 4､9 日

② ファミリー自然観察会

群馬県内の自然についての理解を深めるために、県内各地や博物館周辺を会場として自然観察会を開催し、家族で自然に親しむ機会を提供した。

月　日	テーマ	概　　要	講　師	参加者数
4月25日(日)	生きものみっけ隊① －タンポポを探そう－	博物館周辺で在来種と外来種の分布を調べるタンポポの調査を行った。	教育普及係 上原久志	22
6月27日(日)	いのちを育む林①	玉原高原でブナ林や湿原などで見られる植物の観察をした。	利根沼田自然を愛する会 濱田　誠 二川真二	10
8月8日(日)	生きものみっけ隊② －セミの抜け殻を探そう－	博物館周辺でセミの抜け殻の調査を行った。	教育普及係 上原久志	19
10月17日(日)	いのちを育む林② －里山で自然との共生を考える－	観音山丘陵で里山で見られる植物の観察をした。	県自然環境調査研究会会員 吉井広始 学芸係 大森威宏	7
12月12日(日)	生きものみっけ隊③ －野鳥を探そう－	博物館周辺で野鳥の調査を行った。	日本野鳥の会群馬会員 奥野博邦 黒澤正明	8

1月30日(日)	生きものみっけ隊④ ー昆虫の冬越しを 探そうー	博物館周辺で冬越しをしている昆虫の調査を行った。	博物館ボランティア 林　正樹 教育普及係 上原久志	12
合　　計				78

③ 天体観望会

博物館の天体ドームに設置している 40cm 反射望遠鏡・15cm 屈折望遠鏡や移動式の天体望遠鏡、双眼鏡を使い、その時季に見られる代表的な星座・星雲、惑星について観察した。

月　日	テーマ	概　　要	講　師	参加者数
11月13日(土)	夏と秋の星座、そして月	木星（ガリレオ衛星）月を観望した。その後、曇りと黄砂で観望ができなくなったため「はやぶさ」について学習室で講座を行った。	学芸係 杉山直人	20
12月21日(火)	皆既月食、そして秋と冬の星座	曇りのため、学習室で講座を行った。参加者に皆既月食や日食のしくみについて、球体の発泡スチロールを用いて体験してもらった。	学芸係 杉山直人	10
1月15日(土)	秋と冬の星座そして木星と天王星	木星と月を観望した。その後、講師がイースター島で観測した皆既日食について、動画を使ってくわしく解説した。	県立ぐんま天文台 新井　寿	21
2月11日(金)	冬の星座、そしてオリオン大星雲と月	降雪のため、参加者の安全面を考慮して中止を決定し、参加者に電話連絡をした。講師には望遠鏡のメンテナンスをお願いした。	県立ぐんま天文台 倉林　勉	0
合　　計				51

④ 自然史講座

群馬の自然について考える講座を開催し、県民の自然への興味・関心や知識を高める機会を提供した。

月　日	テーマ	概　　要	講　師	参加者数
4月18日(日)	むし 虫 ウォッチング	昆虫をどのように採集、撮影したかについての裏話や苦労話などを、多数の生態写真を交えて紹介し、講師3人でパネルディスカッション風に解説した。	学芸係 高橋克之 博物館ボランティア 林　正樹 青沼秀彦	54
6月20日(日)	群馬のチョウの保全と赤城山のヒメギフチョウ	赤城山にすみ”赤城姫”の愛称で呼ばれている春一番に現れる美しいヒメギフチョウをとおして、自然環境の保全について解説した。	日本チョウ類保全協会理事 松村行栄	31
11月28日(日)	天体写真で伝える星空の魅力	講師が撮影したたくさんの天体写真を使い、天文の魅力を紹介した。また、天体写真の撮り方について、天体望遠鏡やカメラを使って、参加者	群馬星の会会長 百海正明	20

		に体験してもらった。		
1月8日(土)	WILD　ASIA －アジア野生王国へようこそ－	８０点余りのアジアに生息する野生動物の写真展での写真を説明しながら、アジアの自然史や撮影時のエピソードを紹介した。	写真家・動物映像作家 飯島正広	50
合　　計				155

⑤ 企画展 講演会

企画展に協力いただいた研究者や展示内容に関連する専門家を招いたり、企画展担当者が講師となったりして、企画展に関連した講演会を開催した。

月　日	テーマ	概　　要	講　師	参加者数
7月25日(日)	まとった鎧のひみつ～古生代の海の節足動物、三葉虫～	三葉虫の特徴について、丸まっている三葉虫や極小の三葉虫など多数の標本を観察して学んだ。	静岡大学理学部 地球科学科講師 鈴木雄太郎	46
11月3日(水)	化石研究うちあけ話	講師が体験したねつ造や偽物の化石に関する話や、実際に化石を提示して、化石研究の進め方について解説をした。	群馬県立自然史博物館 名誉館長 長谷川善和	45
3月27日(日)	中学生がわかる！ 最新脳科学	最近の研究でわかってきた脳に関する最新情報の一端を解説した。	文教大学教授 都筑馨介	94
合　　計				185

⑥ 企画展 自然教室

企画展に展示された資料や標本、また企画展に関連した資料や標本等を題材として、生物の体のつくりや生態、調査方法や人とのかかわりについて紹介した。

月　日	テーマ	概　　要	講　師	参加者数
8月22日(日)	三葉虫をしらべよう	参加者は観察用の三葉虫を手にとって、三葉虫の特徴をスケッチした。その後、スケッチを元に発表会を行い理解を深めた。	京都大学総合博物館 館長 大野照文	41
9月23日(水)	コハクのストラップをつくろう	小片のコハク実験を行い、コハクの特徴を学んだ。その後、コハクを紙ヤスリで磨いてコハクストラップを完成させた。	教育普及係 高橋秀武	21
11月14日(日)	コハクのストラップをつくろう	小片のコハク実験を行い、コハクの特徴を学んだ。その後、コハクを紙ヤスリで磨いてコハクストラップを完成させた。	教育普及係 高橋秀武	60
合　　計				122

⑦ 自然史博物館探検隊

展示室内の宿泊や、普段公開していない収蔵庫や展示室の裏側探検など通して、子どもたちに博物館を身近なものに感じてもらうとともに、地球の成り立ちや生物の進化、群馬の自然について、興味・関心を高めてもらうため実施した。参加者へ指導（宿泊指導を含む）は、次長、教育普及係２名、学芸係１名、展示解説員３名で行った。

日　　時：8月7日(土)　集合　午後6:00
　　8月8日(日)　解散　午前8:00
参加人数：小学生29名　(募集対象：小学4～6年生)

⑧ 子どもミュージアムスクール

小学5年生から中学3年生を対象に、様々な体験を通して自然のしくみを知り、自然を大切にする理科好きな子どもの育成をめざして子どもミュージアムスクールを実施した。今年度は、3コースに分け、コース別にテーマに沿って10回の課題追究学習を行った。

コース名	概　　要	指導担当職員	参加者数
キノココース	菌類の種類と形態の特徴を学び、7月と10月に採集したキノコの種類や数を調査した。また、菌類の培養方法を学び、ヒラタケを培養し、その成長の違いを調べた。	学芸係 金井英男	4
昆虫コース	博物館周辺の昆虫のうち、地面で動き回る「地表徘徊性」昆虫について、いままで調査されていないことから、３つの環境の異なる地点（林内、林縁、草原）で、月ごとに調査した。	学芸係 高橋克之	4
ネズミコース	生け捕り式のワナを使って博物館周辺に生息しているネズミを捕まえ、生息場所や季節ごとのネズミの生息状況の変化を調べた。また、ネズミ類の標本作製（簡易剥製・骨格標本）も行った。	学芸係 木村敏之	6
合　　計			14

⑨ ビデオ上映会

自然に対して興味関心を持つきっかけとなることを目的として、参加無料のビデオ上映会を行った。対象は、子どもや家族連れとし、上映内容も自然に関係する低学年用のものを多くした。毎週土曜日の午前11時と日曜日の午前11時、午後2時に上映した。また、夏期休業中は平日の午前11時、午後2時に上映した。ただし、上映場所である学習室を他の行事で使用する場合は上映を行わなかった。

月	上　映　作　品	上映回数	参加者数
4	ビジュアル博物館「昆虫」	10	154
5	ディズニーアニマルワールド「トラ」	12	665
6	茄子田家の親子でスタディ「ロケットはどうして飛ぶの？」	6	38
7	まんが日本昔ばなし「きつねの嫁入り・熊と狐」	20	372
8	自然なぜなに？ＤＶＤ図鑑「クワガタムシ」 ビジュアル博物館「恐竜」	27 28	729 1008
9	ディスカバリーチャンネル「鳥類の祖先　ベロキラプトル」	12	283
10	46億年の贈りもの	17	258
11	ディスカバリーチャンネル「サルタサウルスの成長」	11	115
12	日本昔ばなし「大年の客／天福地福」	11	55
1	ディズニーアニマルワールド「ペンギン」	12	124
2	自然なぜなに？ＤＶＤ図鑑「アリ」	11	131
3	脳科学への招待	8	49
合　　計		185	3,981

⑩ 移動博物館

遠隔地のため博物館に来館する機会の少ない人や、身体的な都合により来館しても十分に見学できない人に博物館を利用する機会を提供するため、県内各地の学校や公民館へ資料を運んで展示する移動博物館を開催した。前年度中に県内北毛地域の各学校・公民館に開催希望をとり、実施した。会場から要望がある場合は、体験活動を行った。体験活動は、化石のレプリカづくりと飛ぶタネの模型づくりの2種類とし、会場職員と協議して決定した。

会　　場	期　　日	利用者数
群馬県立二葉養護学校	5月26日(水)～　5月27日(木)　　2日間	227
ぐんまこどもの国 児童会館	9月25日(土)～　9月26日(日)　　2日間	1,822
館林市多々良公民館	2月18日(金)～　2月20日(日)　　3日間	930
合　　計		2,979

⑪ サイエンス・サタデー

学校週5日制の対応事業として、毎週土曜日の午後2時から3時まで、実験室や館周辺を活用した生物や地学に関連する簡単な実験・観察・ものづくり教室を行った。対象を小学生以上とし、講師や補助指導は館職員とボランティアが行った。

月	テーマ	概　　要	参加者数
4	オオムラサキのペーパークラフトをつくろう	オオムラサキの不思議や生活史を学び、オオムラサキのペーパークラフトをつくった。	156
5	火山灰から宝石を見つけよう	火山灰をわんかけし、鉱物の結晶を双眼実体顕微鏡で観察して記録した。	264
6	キャベツで紙をつくろう	紙の起源や和紙・洋紙について学び、キャベツと牛乳パックを使って、紙づくりをした。	122
7	ツバメ型グライダーをつくろう	ツバメの特徴や生活を学び、ツバメ型グライダーをつくり、飛ばした。	213
8	三葉虫のレプリカをつくろう	企画展（化石）とも関連させ、古生代を代表する三葉虫について学び、三葉虫のレプリカをつくった。	321
9	クルクル絵本でつくるぐんまの恐竜	群馬で見つかった恐竜について学び、2つの立方体を使ったクルクル絵本をつくった。	137
11	カマラサウルスの歯のレプリカをつくろう	植物食恐竜カマラサウルスについて学び、カマラサウルスの歯のレプリカをつくった。	138
12	松ぼっくりでクリスマスツリーをつくろう	松ぼっくりの不思議とその1年を学び、松ぼっくりのクリスマスツリーをつくった。	130
1	動物の足あとスタンプをつくろう	8種類の動物足跡について学び、その中から２種類を選択し、動物の足跡スタンプをつくった。	108
2	北極星を見つける星座盤をつくろう	カシオペアや北斗七星から北極星を見つけることができる早見盤をつくった。	88
3	からくりカレンダーをつくろう	立体視について学び、博物館展示資料付きカレンダーと立体視メガネをつくった。	80
合　　計			1,757

⑫ ミュージアムナイトツアー

今年度は「ミュージアムナイトツアー５周年記念ツアー」と題し、夜の博物館を館職員が案内した。実施時間は 17:30～19:00 を設定し、閉館後の時間帯に行った。恐竜絶滅の原因を薄暗い展示室内の壁を利用して映像で見せたり、夜行性の動物の生態について紹介したり、薄暗い展示室の特徴を生かして解説を行った。

開催日：10 月 9 日（土）・10 月 31 日（日）・11 月 20 日（土）

参加者：92 名

⑬ バックヤードツアー

普段は公開していない博物館のバックヤード（収蔵庫や研究施設）を館職員が案内した。収蔵庫に保管してある化石や剥製などの様々な標本、資料整理の仕方や職員が取り組んでいる調査・研究などについて紹介した。

開催日：1 月 16 日（日）・2 月 13 日（日）

参加者：51 名

⑭ 高校生学芸員

高校生の自然科学への関心を高めるため、自分で設定した研究テーマについて、学芸係職員の指導をもとに調査・研究を行う事業を実施した。今年度は 13 名の高校生が、7 のテーマに取り組んだ。

	分　野	主な活動内容	参　加　者	担当
1	種子植物	インゲンマメの発芽と成長での子葉の必要性について	県立前橋女子高等学校　１名	大森
2	種子植物	玉原高原のブナ林 植物種の多様性に関する研究	早稲田大学本庄高等学院　１名	大森
3	菌　類	キノコの採集と観察・同定 キノコの培養	県立富岡東高等学校　２名	金井
4	哺乳類	ハクビシンの犬歯に形成されるセメント質年齢と頭蓋骨、四肢骨、寛骨癒合状況の関係	県立前橋女子高等学校　１名	姉崎
5	貝　類	群馬県富岡市妙義山東山麓の陸生軟体動物について	県立富岡東高等学校　３名	杉山
6	古生物	日本国上部中新統からのオストラコーダの２新種	県立富岡東高等学校　４名	田中
7	古生物	桐生地域の鍾乳洞から発見された化石の研究	県立吉井高等学校　　１名	長谷川

⑮ チャレンジ講座

団塊の世代向けの講座として、参加者の知的好奇心を満たし、それぞれの分野に対する興味関心が高まるきっかけとなるよう以下の３コースで実施した。

	コース	内　　容	参加者	担当
1	植物コース	標本作成の基礎について、実習を交えながら、採集段階から保管時までを習得した。	５名	大森
2	岩石コース	岩石を採集し、岩石がどのような鉱物で構成されているかについて、薄片プレパラートをつく	５名	田中

		って調べた。		
3	化石コース	実際に貝類などの大型化石を採集し、化石の調べ方について学んだ。	１０名	髙棲

(2)教育支援

① 大学・高等学校教育への支援　　計 6 校、520 名

支援先	対象	実施日	会場	人数	内　　容	対応職員
東京農業大学短期大学部	大学1年	4 月 9 日	自然史博物館	96	学外オリエンテーション	大森
青山学院大学	大学2年	8 月 13 日	自然史博物館	16	博物館講座野外実習	三田
群馬県立西邑楽高等学校	科学部	8 月 5 日	自然史博物館	20	バックヤード見学	高橋(秀) 杉山
県立渋川高等学校	高 1 小見佳史	8 月 17 日	自然史博物館	1	職場インタビュー	上原
県立前橋東高等学校	高 1	10 月 15 日	自然史博物館	20	博物館の役割と学芸員の仕事、レプリカづくり体験	三田 高橋(秀) 杉山
県立尾瀬高等学校 (SPP 事業)	高 1	11 月 11 日	自然史博物館	37	自然史博物館の展示概要、博物館ボランティアによる展示解説	三田 岩井 高橋(秀)
県立太田女子高等学校 (SPP 事業)	高 1,2	10 月 12 日	太田女子高校	80	「地球および生命の誕生」	田中
		10 月 13 日		80	「顕生代初期の生命の進化」	田中
		10 月 26 日		80	「中生代の生物」	髙棲
		10 月 27 日		80	「新生代の生物」	髙棲
		11 月 21 日	自然史博物館	30	常設展示、企画展示の解説	髙棲 杉山 田中 高橋(秀)

② 小中学校教育への支援

ア SPP 事業への対応　　計 3 校、422 名

学　校　名	学年	実施日	人数	内　　容（対応方法）	対応職員等
玉村町立南中学校 (SPP 事業)	1	10 月 13 日	193	北関東の地質の特徴（出前）	髙棲
玉村町立南中学校 (SPP 事業)	1	11 月 5 日	36	碓氷川での地層観察及び化石採集（来館）	髙棲 高橋（秀）

玉村町立南中学校 （SPP 事業）	1	11 月 24 日	193	碓氷川での地層観察及び化石採集（来館）	髙桒 高橋（秀）

イ　総合的な学習の時間への対応（一般見学は除く）　　計 5 校、10 名

学　校　名	学年	実施日	人数	内　　容（対応方法）	対応職員等
富岡市立東中学校	1	11 月 25 日	3	博物館業務について	上原
安中市立第一中学校	1	12 月 15 日	2	安中の地層及び安中の河原に生息する動植物	高橋（秀）
安中市立原市小学校	6	1 月 4 日	2	博物館業務について	高橋（秀）
群馬県立尾瀬高等学校	1	1 月 5 日	1	博物館業務について	高橋（秀）
富岡市立富岡中学校	1	2 月 1 日	3	博物館業務について	高橋（秀）

ウ　小学校・中学校及び理科主任会等への講師派遣・支援　　計 29 回　受講者 787 名

講師派遣・支援先	対象	実施日	会場	人数	内　　容	対応職員
富岡市小中学校校長会	校長	4 月 9 日	富岡市教育委員会	17	自然史博物館の効果的な利用方法	高橋(秀)
高崎市小学校理科主任会	教員	4 月 15 日	高崎市立中居小学校	60	同上	武井
高崎市中学校理科主任会	教員	4 月 15 日	高崎市中央公民館	29	同上	岩井
前橋市小学校理科主任会	教員	4 月 14 日	前橋市立桃井小学校	55	同上	上原
前橋市中学校理科主任会	教員	4 月 23 日	前橋教育プラザ	27	同上	高橋(秀)
富岡市中学校理科主任会	教員	4 月 27 日	富岡市立南中学校	8	同上	高橋(秀)
富岡市小学校理科主任会	教員	5 月 7 日	富岡市立富岡小学校	14	同上	武井
県小学校理科部会	教員	5 月 14 日	県生涯学習センター	55	同上	武井
県中学校理科部会	教員	5 月 28 日	県生涯学習センター	55	同上	高橋(秀)
安中市立小学校理科主任会	教員	6 月 18 日	安中市文化センター	15	同上	上原
長野原町教育委員会	ﾎｰﾑｽﾃｲ	7 月 16 日	自然史博物館	12	特別解説	解説員
富岡市立南中学校	科学部	7 月 22 日	自然史博物館	10	企画展解説	髙桒

吾妻地区中学校理科主任会	教員	8月4日	自然史博物館	10	バックヤード見学	高橋(秀) 杉山
あづま公民館	一般	8月6日	自然史博物館	30	レプリカ作成	岩井
高崎市中学校理科主任会	教員	8月12日	自然史博物館	10	天文関係の研修会	高橋(秀) 岩井 杉山
群馬県総合教育センター	教員	8月18日	自然史博物館	13	動物の解剖	高橋(秀) 姉崎
赤堀図書館	一般	8月18日	自然史博物館	30	レプリカ作成	上原
東京都江戸川区立鹿本小学校	小6	9月19日	妙義少年自然の家	48	天体観察	杉山
かぶら理科研究会	教員	10月23日	自然史博物館	15	昆虫の観察	高橋(克)
県教育研究会	教員	10月30日	県生涯学習センター	21	植物化石の観察	三田
富岡市立妙義小学校	小3～6	11月3日	妙義少年自然の家	55	天体観察	杉山
富岡市立妙義小学校	小3～6	11月4日	妙義少年自然の家	55	天体観察	三田
安中市立後閑小学校	小6	11月10日	碓氷川の露頭	12	地層・化石の観察	髙桒 高橋(秀)
安中市立下室田小学校	小6	11月12日	碓氷川の露頭	28	地層・化石の観察	髙桒 高橋(秀)
安中市立九十九小学校	小6	11月19日	碓氷川の露頭	9	地層・化石の観察	高橋(秀)
高崎市立南八幡小学校	科学クラブ	12月15日	高崎市立南八幡小学校	30	化石のレプリカづくり	岩井
富岡市立黒岩小学校	小4	2月9日	自然史博物館	14	天体観察	杉山
安中市立秋間小学校	小4	2月19日	安中市立秋間小学校	30	天体観察	杉山

エ　館内授業　　計 50 校、80 回、2,749 名

学校名	学年	実施日	人数	授業内容	授業数
太田市立韮川西小学校	4	5月13日	84	レプリカ	2
板橋区立志村第二小学校	5	5月14日	83	レプリカ	2
太田市立沢野中央小学校	4	5月19日	78	レプリカ	2
桐生市中学校特別支援学級	中1～3	5月20日	23	飛ぶタネ	1
板橋区立緑小学校	5	5月20日	72	レプリカ	2
板橋区立天津わかしお学校	5	6月2日	11	レプリカ	1

伊勢崎市立殖蓮第二小学校	3	6月3日	81	飛ぶタネ	2
板橋区立中根橋小学校	5	6月4日	63	レプリカ	2
玉村町立芝根小学校	3	6月9日	66	レプリカ	2
県立赤城養護学校	小1～中3	6月10日	8	飛ぶタネ	1
太田市立南小学校	4	6月11日	80	レプリカ	2
渋川市立小野上小学校	5	6月17日	17	レプリカ	1
練馬区立石神井西小学校	小1～5	6月17日	11	飛ぶタネ	1
文京区立文林中学校	中1～2	6月18日	88	レプリカ	2
東久留米市立下里小学校	6	6月30日	21	レプリカ	1
清瀬市立清瀬第三小学校	5	7月2日	83	レプリカ	2
東久留米市立第四小学校	6	7月7日	14	レプリカ	1
目黒区立菅刈小学校	6	7月7日	48	レプリカ	1
東久留米市立本村小学校	6	7月9日	67	レプリカ	2
練馬区立南が丘中 学校	中1～3	7月9日	13	レプリカ	1
板橋区立富士見台小学校	5	7月14日	71	葉のパウチ	2
桶川市立加納小学校	5	7月23日	74	レプリカ	2
高崎市立吉井中央中学校	中1～3	8月11日	9	レプリカ	1
板橋区立徳丸小学校	5	9月8日	100	レプリカ	2
板橋区立大山小学校	5	9月8日	25	レプリカ	1
板橋区立高島第三小学校	5	9月10日	58	レプリカ	2
清瀬市立清瀬第七小学校	5	9月15日	40	液体窒素	1
榛東村立南小学校	4	10月6日	74	レプリカ	2
板橋区立板橋第一小学校	5	10月6日	43	レプリカ	1
前橋市立若宮小学校	小3～4	10月7日	90	レプリカ	2
前橋市立駒形小学校	4	10月8日	67	レプリカ	2
榛東村立北小学校	4	10月8日	67	レプリカ	2
大泉町立南小学校	4	10月14日	128	レプリカ	3
板橋区立上板橋小学校	5	10月14日	40	植物化石	1
大泉町立西小学校	4	10月15日	97	レプリカ	2
板橋区立志村第一小学校	5	10月20日	76	レプリカ	2
太田市立宝泉南小学校	4	10月21日	35	レプリカ	1
渋川市立豊秋小学校	3	10月21日	72	レプリカ	2
板橋区立志村第四小学校	5	10月22日	78	レプリカ	2
板橋区立志村学校	5	10月27日	66	植物化石	2
みどり市立神梅小学校	小1～6	10月29日	26	飛ぶタネ	1
板橋区立新河岸小学校	5	10月29日	63	レプリカ	2
県立富岡高等学校	高1～4	11月17日	57	レプリカ	2
太田市立中央小学校	4	11月18日	79	レプリカ	2
前橋市立城南小学校	6	11月26日	88	レプリカ	2
桐生市立昭和小学校	5	12月2日	23	レプリカ	1
高崎市立八幡小学校	3	1月21日	74	飛ぶタネ	2
東久留米市教育センター学習適応教室	小6～中3	1月21日	12	液体窒素	1

甘楽町立秋畑小学校	6	3月2日	6	植物化石	1
合　　計			2，749		80

※授業内容は以下の通り

レプリカ:「化石のレプリカを作ろう」　　植物化石：「植物化石を探そう」

飛ぶタネ：「飛ぶタネの模型を作ろう」　　パウチ標本：「葉のパウチ標本を作ろう」

液体窒素：「液体窒素で極低温を体験しよう」

オ　ビデオ上映会　　上映回数 41 回　　参加者数　3,167 名

上 映 作 品	校　種	上映回数	参加者数
ドラえもん地球大探検	小学校	35	2,664
	幼稚園保育園	3	270
その他	小学校	2	217
	中学校	1	16
計		41	3,167

カ　職場体験活動（中学校・高等学校）　　計 11 校・22 日・延べ 33 名

学　校　名	学年	実施日	人数	内　　容	対応職員
高崎市立吉井西中学校	2	5月27日・28日	4	学芸業務に関わる資料整理	杉山･田中
県立尾瀬高等学校	2	6月11日・12日	1	学芸業務に関わる資料整理・教育普及業務	上原･木村･高橋(秀)
安中市立松井田南中学校	2	9月1日・2日	4	学芸業務に関わる資料整理・教育普及業務	上原･木村･高橋(秀)
安中市立第一中学校	2	9月15日・16日	4	学芸業務に関わる資料整理・教育普及業務	高橋(克)・田中･高橋(秀)･岩井
富岡市立北中学校	2	9月28日・29日	2	学芸業務に関わる資料整理	杉山･上原･高橋(秀)
安中市立第二中学校	2	9月30日・10月1日	4	学芸業務に関わる資料整理・教育普及業務	金井・杉山・高橋(秀)･武井
甘楽町立第一中学校	2	10月20日・21日	3	学芸業務に関わる資料整理・教育普及業務	金井･木村･杉山･高橋(秀)･武井
群馬県立吉井高等学校	1	10月20日・21日	1	学芸業務に関わる資料整理	高橋(克)･髙梨･高橋(秀)
富岡市立西中学校	2	11月4日・5日	3	学芸業務に関わる資料整理・教育普及業務	金井･上原･杉山高橋(秀)･岩井
富岡市立妙義中学校	2	11月10日・11日	3	学芸業務に関わる資料整理・教育普及業務	上原･杉山･姉崎高橋(秀)
富岡市立富岡中学校	2	11月30日・12月1日	4	学芸業務に関わる資料整理・教育普及業務	金井･高橋(克)･姉崎･田中･高橋(秀)

キ　教育用資料貸出　　延べ 58 団体

貸出先	貸出日	返却日	貸出資料	使用目的
群馬大学附属中学校	22.4.22	22.5.4	頭骨標本	理科授業
安中市立第二中学校	22.5.5	22.5.16	化石セット	理科授業
神流町教育委員会	22.5.15	22.5.16	反射望遠鏡	星空観察会
高崎市立新高尾小学校	22.5.22	22.6.5	頭骨標本	学校保健委員会
みどり市立笠懸東小学校	22.6.5	22.6.20	昆虫標本	理科授業
藤岡市立藤岡第二小学校	22.6.19	22.6.26	頭骨標本 レプリカ作成	理科授業
安中市立西横野小学校	22.6.20	22.6.27	昆虫標本	理科授業
富岡市立富岡小学校	22.6.24	22.7.1	頭骨標本　歯	歯科保健
富岡市立富岡小学校	22.6.20	22.7.6	鉄隕石	理科授業
甘楽町立第一中学校	22.7.4	22.7.9	頭骨標本	理科授業
富岡市立高田小学校	22.7.6	22.7.10	昆虫標本	理科授業
高崎立高松中学校	22.7.21	22.7.28	レプリカ作成	科学部
甘楽町立秋畑小学校	22.8.8	22.8.8	液体窒素セット	体験活動
群馬大学工学部	22.8.14	22.8.21	レプリカ作成	理科指導
群馬大学工学部	22.8.14	22.8.21	クリノメーター	理科指導
富岡市立丹生小学校	22.7.22	22.7.22	レプリカ作成	科学教室
甘楽町立新屋小学校	22.7.23	22.7.31	反射、屈折望遠鏡	星空観察会
甘楽町立新屋小学校	22.8.5	22.8.7	反射、屈折望遠鏡	星空観察会
甘楽町立新屋小学校	22.8.12	22.8.13	反射、屈折望遠鏡	星空観察会
富岡市立吉田小学校	22.9.8	22.9.9	液体窒素セット	理科授業
富岡市立南中学校	22.9.7	22.9.9	頭骨標本	理科授業
前橋市立鎌倉中学校	22.9.14	22.9.23	頭骨標本　　歯 進化の証拠セット	理科授業
高崎市立片岡中学校	22.8.28	22.9.4	頭骨標本	理科授業
安中市立秋間小学校	22.11.10	22.11.12	液体窒素セット	PTA 行事
中之条町立中央公民館	22.11.26	22.11.27	レプリカ作成	少年教室
藤岡市立鬼石中学校	22.8.29	22.9.5	頭骨標本	理科授業
高崎市立倉賀野中学校	22.9.14	22.9.17	頭骨標本	理科授業
富岡市立東中学校	22.9.7	22.9.10	頭骨標本	理科授業
富岡市立小野小学校	22.9.29	22.9.30	液体窒素セット	理科授業
富岡市立丹生小学校	22.9.14	22.9.15	反射、屈折望遠鏡	天体観察会
群馬県立伊勢崎高等学校	22.9.12	22.9.17	頭骨標本	生物授業
安中市立原市小学校	22.12.5	22.12.11	液体窒素セット	理科授業
富岡市立東中学校	22.9.12	22.9.15	頭骨標本	理科授業
明和県央高等学校	22.10.16	22.10.23	レプリカ作成	理科授業
下仁田町立下仁田小学校	22.10.31	22.11.14	頭骨標本　歯	保健指導
高崎市立倉賀野中学校	22.10.5	22.10.8	液体窒素セット	理科授業
甘楽町立新屋小学校	22.10.13	22.10.16	反射、屈折望遠鏡	星空観察会
高崎市立倉賀野中学校	22.10.26	22.10.27	レプリカ作成	理科授業
藤岡市立西中学校	22.10.14	22.10.27	頭骨標本	理科授業

群馬県総合教育センター	22.10.15		液体窒素	理科授業
富岡市立額部小学校	22.10.29	22.11.12	頭骨標本　歯	保健指導
高崎市立六郷小学校	22.11.19	22.11.25	レプリカ作成	理科授業
富岡市立丹生小学校	22.10.29	22.11.13	頭骨標本　歯	保健指導
高崎市立城南小学校	22.11.16	22.11.20	レプリカ作成	科学クラブ
高崎市立岩鼻小学校	22.11.12	22.11.17	レプリカ作成	理科授業
明和県央高等学校	23.1.15	23.1.22	頭骨標本　歯	理科授業
神流町教育委員会	22.12.4	22.12.5	反射望遠鏡	星空観察会
富岡市立西中学校	22.11.26	22.11.28	液体窒素セット	技術科授業
安中市立第二中学校	22.11.27	22.12.3	レプリカ作成	理科授業
甘楽町立新屋小学校	22.12.14	22.12.23	反射望遠鏡	星空観察会
藤岡市立北中学校	23.1.4	23.1.12	レプリカ作成	科学部
富岡市立妙義中学校	23.1.26		液体窒素	理科授業
伊勢崎市立赤堀中学校	23.2.22	23.3.4	レプリカ作成	理科授業
富岡市立妙義中学校	23.2.23		液体窒素	理科授業
富岡市立東中学校	23.3.1	23.3.2	液体窒素セット	理科授業
富岡市立西中学校	23.2.27	23.3.1	液体窒素セット	技術科授業
富岡市立西中学校	23.3.1	23.3.3	液体窒素セット	技術科授業
安中市立九十九小学校	23.3.6	23.3.9	レプリカ作成	理科授業

※貸出資料名

化石のレプリカ作成セット：「レプリカ作成」　昆虫標本セット：「昆虫標本」
歯のレプリカセット：「歯」
動物頭骨標本：「頭骨標本」　いろいろな化石セット：「いろいろな化石」
反射式天体望遠鏡：「反射望遠鏡」　　屈折式天体望遠鏡：「屈折望遠鏡」
液体窒素と液体窒素実験セット：「液体窒素セット」

③　博物館実習

学芸員資格取得のため、当館での実習を希望した学生を対象に博物館実習を行った。

・募集期間：平成 22 年 4 月 1 日（木）～4 月 30 日（金）
・受入期間：平成 22 年 8 月 1 日（日）～8 月 11 日（水）〔実日数 10 日間〕
・受入人数：　１４名（大学別の内訳は下表）

学校名	人数	学校名	人数	学校名	人数
東海大学	３名	茨城大学	１名	東京農業大学	１名
信州大学	１名	国士舘大学	１名	群馬県立女子大	１名
専修大学	１名	筑波大学	１名	立正大学	１名
高崎経済大学	２名	静岡大学	１名		

・主な内容

（講義）「学芸員を目指す人たちへ」、「博物館の組織」、「学芸業務」、「教育普及業務」、「資料の保管・維持管理」、「企画展のできるまで」等
（実習）資料整理業務実習（哺乳類、魚類、昆虫、貝類、植物、岩石、古生物）
教育普及活動実習（科学教室「サイエンスサタデー」の準備）
企画展計画立案・展示製作実習

１班：「鳥の羽根 -きれいな色には理由がある- 」
２班：「ギョッ!!とするほど魚ッチング!!～魚の歯について知ろう」
３班：「地蟲界　～土の中にすむ小さな動物たち～」
企画展解説実習

(3)　学会等の開催

①　化石研究会

化石に関係する国内の学術団体の一つである化石研究会の第 134 回例会を開催した。当館で同会の行事が開催されるのは、平成 10（1998）年 11 月に開催された第 111 回例会に次いで２度目である。

今回は第 36 回企画展「石になったものの記録」が開催中であったことから、化石研究会の好意により、公開講演会として開催することができ、非会員の一般参加者も聴講した。講演は、同企画展に展示されている３つの分類群を取り上げ、それぞれ別のトピックに基づいた内容にした。また講演終了後には、企画展見学を行った。

開催日時：平成 22(2010)年 11 月 6 日（土）13:00～17:00
実施会場：自然史博物館（学習室・実験室・企画展）
参加人数：28 名（うち、会員 15 名）
実施内容：公開講演会「石になったものの記録」を読む
演　　題：講演１「埋積過程および貧酸素環境におけるクモヒトデのタフォノミー」
講師　石田吉明
講演２「クジラ類の形態と生態戦略」
講師　木村敏之（群馬県立自然史博物館）
講演３「島嶼環境へ進出した長鼻類化石の進化と絶滅」
講師　北川博道（京都大学大学院理学研究科）

②　群馬県野生動物調査・対策報告会（2010）の中止と要旨集のＨＰ掲載

群馬県内で行われている野生動物に係わる取り組みについて、実務を担う県・市町村担当者より報告を行うものである。2008 年度より開始し、対象は、一般参加者である。第 3 回目となる本年度の報告は 7 課題あり，自然保護協会，県自然環境課，みなかみ町，県林業試験場が報告する予定であったが，東北関東大震災の発生により開催を中止した.

本報告会の主催は群馬県（県自然環境課、県技術支援課、県立自然史博物館）であり，実施場所は自然史博物館学習室の予定であった．なお、報告会要旨集については、当館 HP に掲載予定である。

３　資料収集・管理

(1)　収蔵資料数

番号	分　　野	22 年度	全登録
1	哺乳類	231	1,382
2	鳥類	1	1,663
3	両生・爬虫類	22	598
4	魚類・円口類	45	763

5	昆虫	2,943	34,688
6	クモ類	0	47
7	甲殻類	0	461
8	その他の節足動物	0	2
9	軟体動物	357	10,382
10	その他の無脊椎動物	0	135
11	ロット標本	0	578
12	種子植物	3,724	46,882
13	シダ植物	637	5,763
14	蘚苔類	1	670
15	藻類	0	318
16	地衣類	0	313
17	菌類	411	3,340
18	細菌類	0	0
19	人類	0	1,909
20	古動物	214	4,219
21	古植物	194	2,821
22	岩石	171	1,349
23	鉱物	21	1,736
24	環境・地質現象	0	43
合　　計		8,972	120,062

(2)　資料購入

番号	資　料　名　称	分　野	数量	購　入　業　者
1	ライオン頭骨レプリカ（教育普及用）	哺乳類	1	（株）ｾﾞﾈﾗﾙｻｲｴﾝｽｺｰﾎﾟﾚｰｼｮﾝ
2	アジア人頭骨レプリカ（教育普及用）	哺乳類	1	（株）ｾﾞﾈﾗﾙｻｲｴﾝｽｺｰﾎﾟﾚｰｼｮﾝ
3	アンモナイト実物化石標本（教育普及用）	古生物	6	（株）ｾﾞﾈﾗﾙｻｲｴﾝｽｺｰﾎﾟﾚｰｼｮﾝ
4	スピノサウルス脊椎レプリカ	古生物	1	（株）パレオサイエンス

(3)　委託（製作・資料整理）

番号	委 託 名 称	分野	数量	委 託 先 名 称	用 途
1	大型三葉虫化石複製品作製業務委託	古生物	1	株式会社パレオサイエンス	展　示
2	古生物生体復元模型作成業務委託	古生物	5	株式会社パレオサイエンス	展　示
3	ニッポノサウルス顎部複製品作製業務委託	古生物	1	有限会社ｺﾞﾋﾞｻﾎﾟｰﾄｼﾞｬﾊﾟﾝ	展示 研究
4	古生物デジタルコンセ制作業務委託	古生物	50	株式会社ニュートンプレス	展　示
5	魚類標本製作業務委託	魚類	1	（有）上野剥製所	展　示
6	ブルーギル剥製標本製作業務委託	魚類	1	大島　宏	展　示
7	アイヌ犬剥製製作委託	哺乳類	1	（有）尼ヶ崎剥製標本社	展　示

8	剥製製作業務委託	鳥類 哺乳類	9	（有）尼ヶ崎剥製標本社	展　示
9	魚類標本製作業務委託	魚類	2	（有）尼ヶ崎剥製標本社	展　示

(4)　寄贈資料・管理移管資料

番号	受贈資料名称	分野	数量	受贈者	受付年月日
1	クジャク剥製標本	動物	1	いちごばたけ幼稚園	H22.4.9
2	シカ剥製標本	動物	1	(株)仲商事	H22.4.9
3	ヤマメ、ハス剥製標本	動物	2	大島　宏	H22.5.5
4	国内産化石等標本	古生物等	1,376	岡部　勇	H22.5.21
5	コレニア大型標本	古生物	1	北林弘光	H22.6.15
6	ﾂｷﾉﾜｸﾞﾏ､ﾋｸﾞﾏ剥製標本等(移管)	動物	6	東毛少年自然の家	H22.6.18
7	タヌキ剥製標本	動物	1	中澤　修	H22.10.8
8	カメレオン剥製標本	動物	1	西場ひまり	H23.1.10
9	神流町産カグラザメ類歯化石標本	古生物	1	上村英雄	H23.1.26
10	群馬県産植物さく葉標本	植物	18,940	宮前壽子	H23.3.3
11	地質学関係資料(小林国夫氏収集)	地質	1,987	小林友子	H23.3.12
12	ﾂｷﾉﾜｸﾞﾏの食害を受けたﾄﾁﾉｷ材	動物	1	利根沼田環境森林事務所	H22.9.8

(5)　寄託資料

番号	寄託資料名称	数量	寄託者名称	寄託期間
	今年度は無し			

(6)　借用資料

番号	借用資料名称	数量	借用先名称	借 用 期 間	備考
1	アルゼンチン産魚竜化石	1	早坂　秀一(石の館)	H22.4.7～H23.3.3	
2	地層はぎ取り標本	1	野尻湖ナウマンゾウ博物館	H22.5.13～H22.12.1	
3	ヒマラヤ産ウミユリ化石	1	ミュージアム鉱研　地球の宝石箱	H22.5.26～H22.11.25	
4	オパール化した昆虫化石等	23	ミュージアムパーク茨城県自然博物館	H22.6.5～H22.12.11	
5	深海ﾐﾈﾗﾙﾊﾟｳﾀﾞｰｻﾝﾌﾟﾙ等	8	株式会社セイホウ	H22.6.3～H22.11.30	
6	ケイソウの電子顕微鏡画像	30	須藤斎（名古屋大学理学部）	H22.5.23～H22.11.21	
7	サガルマータ（エベレ	7	八木原圀明	H22.5.28～H22.12.28	

	スト）山の写真				
8	放散虫化石の電子顕微鏡画像	25	名古屋大学博物館	H22.6.1～H22.11.21	
9	コノドント化石（日本最古の化石）等	2	東田和弘(名古屋大学博物館)	H22.6.2～H22.12.1	
10	三葉虫（ファコプス）等標本・画像	31	神奈川県立生命の星・地球博物館	H22.6.10～H22.12.18	
11	ボリビア産ノジュール	25	神奈川県立生命の星・地球博物館	H22.6.10～H22.12.18	
12	古生物造形作品（ウインタテリウム等)	5	近　洋二､徳川広和､守亜和由紀､まつもとかずや､横山隼	H22.6.30～H22.12.28	使用料
13	小型三葉虫標本等	2	鈴木雄太郎（静岡大学理学部)	H22.6.30～H22.11.21	
14	放散虫実体（３Ｄ拡大復元）模型	3	松岡　篤（新潟大学理学部)	H22.6.30～H22.12.28	
15	久慈産コハク原石・化石等	19	久慈琥珀株式会社	H22.6.30～H22.12.28	
16	クモヒトデ類実験動画・画像	2	石田吉明	H22.6.30～H22.12.28	
17	円石藻のスミアスライド・電子顕微鏡画像	13	田中裕一郎（産総研)	H22.6.30～H22.12.28	
18	海緑石で置換された巻貝化石等	2	ミュージアムパーク茨城県自然博物館	H22.6.20～H22.12.11	
19	国内産三葉虫化石産状標本	1	石原克彦	H22.7.1～H22.12.28	
20	アンモライト標本	2	反町健司	H22.7.3～H22.12.28	
21	菊花石標本	1	北林弘光	H22.7.10～H22.12.28	
22	ニッポノサウルス	1	北海道大学総合博物館	H22.7.23～H22.12.28	
23	底生有孔虫のﾌﾟﾚﾊﾟﾗｰﾄ標本	9	河潟俊吾（横浜国立大学教育学部)	H22.7.7～H22.12.15	
24	インド産大型アンモナイト	1	和仁良二（横浜国立大学学際プロジェクト研究センター)	H22.9.15～H22.12.15	
25	火砕岩中のアホウドリ化石	1	国立科学博物館	H22.9.2～H22.12.17	
26	ネコの脳・延髄等９点、ヒト脳断面等４点	13	麻布大学、神奈川歯科大学	H23.2.24～H23.5.31	
27	GIS 解析用航空写真	一式	群馬県庁林政課	H23.1.31～H23.3.18	
28	３Ｄ出力モデル（動脈瘤、脳の発育各種）等	一式	株式会社エヌ・ティーエス	H23.3.10～H23.5.31	使用料
29	脳外科手術道具等	8	函館新都市病院	H23.2.9～H23.5.31	
30	寺西貝塚出土のｼｼﾞﾐ･ﾊﾞ	304	板倉町教育委員会事務	H23.4.1～H26.3.31	期間更

	ｲｶﾞｲ		局		新
31	ストロマトライト等岩石資料	9	神奈川県立生命の星・地球博物館	H23.4.1～H24.3.31	期間更新

(7) 貸出資料

番号	貸出資料名称	数量	貸出先名称	貸出期間	備　考
1	ジョウモウクジラ（標本・DVD）	2	岩宿博物館	H22.5.10～H22.5.31	
2	昆虫、三葉虫等の化石標本	8	群馬県立ぐんま昆虫の森	H22.4.26～H22.9.1	期間更新
3	石炭紀産昆虫化石レプリカ	6	群馬県立ぐんま昆虫の森	H22.5.14～H22.9.1	
4	ﾈｱﾝﾃﾞﾙﾀｰﾙ人埋葬ｼﾞｵﾗﾏ写真	1	長野県立歴史館	H22.5.25～H22.6.11	
5	スプリッギナ等化石標本の画像	6	株式会社第一学習社	H22.5.15～H22.6.11	
6	ﾌﾀﾕﾋﾞﾅﾏｹﾓﾉ等哺乳類剥製標本	14	島根県立三瓶自然館	H22.6.15～ H22.10.20	
7	トリケラトプス等の画像	5	日経 BP 社	H22.5.26～H22.6.6	
8	ティランノサウルス動刻の画像	1	株式会社フジテレビジョン	H22.6.9～H22.6.12	
9	ﾏﾒﾝｷｻｳﾙｽ全身骨格等恐竜標本	6	恐竜サイエンス展実行委員会（旭川市）	H22.6.16～H22.9.19	
10	ﾍﾟﾃﾞｨｵﾐｽ等脊椎動物化石標本	25	仙台市科学館	H22.7.1～H22.8.31	
11	ｼﾉｻｳﾛﾌﾟﾃﾘｸｽ等恐竜標本	12	日本経済新聞社（2011 恐竜博いわて）	H22.7.1～H22.8.25	
12	ｼﾞｮｳﾓｳｸｼﾞﾗ頭骨複製等化石標本	4	みどり市大間々博物館（コノドント館）	H22.6.16～H22.9.3	
13	アマルガサウルス全身骨格	1	森ビル株式会社（地球最古の恐竜展）	H22.6.14～ H22.10.15	
14	ﾃｨﾗﾝﾉｻｳﾙｽの歯（一式）	1	北海道大学総合博物館	H22.7.1～H22.10.31	
15	上越帯産ウミユリ化石標本等	6	神奈川県立生命の星・地球博物館	H22.6.20～ H22.11.30	
16	ツノイグアナ頭骨（レプリカ）	1	株式会社テレビマンユニオン	H22.7.10～H22.7.14	
17	ﾃｨﾗﾝﾉｻｳｳﾙの歯、恐竜の卵	2	久慈琥珀博物館	H22.7.17～H22.9.12	
18	ディノサウロイドの画像	1	株式会社テレビマンユニオン	H22.7.27～H22.8.6	

19	ﾊﾞｰｼﾞｪｽ動物群ｼﾞｵﾗﾏの画像	1	株式会社アルパ	H22.9.15～H23.1.31	
20	アムールハリネズミ剥製標本	1	日本テレビ放送網株式会社	H22.10.23～H22.10.29	
21	サルタサウルスの卵	1	久慈琥珀博物館	H22.11.16～H22.11.27	
22	ﾌﾞﾗｷｵｻｳﾙｽ等恐竜標本の画像	13	有限会社オフィスＪ・Ｂ	H22.11.25～H23.1.6	
23	山中層群産ベレムナイト化石	1	伊庭靖弘（国立科学博物館）	H22.6.1～H23.1.31	期間更新
24	現生シーラカンス鱗標本の画像	1	福井市自然史博物館	H22.12.18～H23.5.15	
25	三葉虫等化石標本の画像	3	株式会社ホールマン	H22.12.2～H22.12.25	
26	化石人類頭骨の画像	6	日体柔整専門学校	H23.1.11～H23.1.20	
27	コケムシ化石の画像	2	東京書籍株式会社	H23.1.7～H24.3.31	
28	トゥオジャンゴサウルス全身骨格等	4	神流町恐竜センター	H23.4.1～H23.12.15	**貸出は次年度**
29	パキケファロサウルス頭骨等	9	神流町恐竜センター	H23.4.1～H23.12.15	**貸出は次年度**
30	ティランノサウルスの歯の画像	1	株式会社美和企画	H23.2.22～H23.5.18	
31	カモハシリュウ足跡等	13	ミュージアムパーク茨城県自然博物館	H23.3.2～H23.6.19	
32	カマラサウルス亜成体全身骨格	1	国立科学博物館・朝日新聞社	H23.6.18～H23.10.16	**貸出は次年度**
33	松葉石標本	2	太田市教育委員会（高山彦九郎記念館）	H23.3.9～H23.7.10	

(8) 特別観覧

番号	観覧資料名称	数	特別観覧申請者		申請期間	備考
1	カマラサウルス	1	カルメン・フネス博物館（アルゼンチン）	Ariana Paulina Carabajal	H.22.5.20	
2	ゴニオフォリス類	1	京都大学大学院	黒須弘美	H.22.5.21～22	
3	クジラ類化石	10	ニューヨーク工科大付属オステオパシー医学校	Jonathan H. Geisler	H22.5.19	
4	ケトテリウム類化石	1	東北大学大学院	小向　英	H.22.6.3	

5	群馬県産トンボ類	700	群馬県立前橋女子高等学校	岡崎太郎	H22.7.30	
6	カマラサウルス	1	ブリガムヤング大学付属 古生物博物館	Brookes B. Britt	H.22.8.22～23	

(9) 画像等使用許可

番号	使用画像名称	数	使用者名称	使用開始日
1	アウストラロピテクス(肉付・骨格)	2	株式会社ジーニアスエデュケーション(学習雑誌)	H22.4.26
2	サンチュウリュウ	1	株式会社テレビ朝日 (SmaSTATION!!)	H22.5.1
3	始祖鳥全身骨格模型	1	株式会社小学館(コロタン文庫 恐竜なんでも百科)	H22.6.15
4	アルゼンチノサウルス、カウディプテリクス	2	ドゥ＆ドゥプランニング有限会社 (小学館の図鑑 NEO ポケット)	H22.6.30
5	アファール猿人等人類画像	5	(財)薩摩川内市民まちづくり公社[せんだい宇宙館](天の川内川展での展示)	H22.7.1～10.31
6	ビカリア,エディアカラ動物群ジオラマ	2	数研出版株式会社 (教科書掲載・再使用)	H22.6.19 ～ H29.3.31
7	群馬県産スピノサウルス類	1	日本経済新聞社・テレビ岩手 (2011 恐竜博いわてグッズ)	H22.7.10 ～8.16
8	企画展 BONES の成長する人骨コーナー	1	財団法人ひたちなか市文化・スポーツ振興公社	H22.11.3 ～
9	石炭紀産ゴキブリ類化石	1	株式会社ニュートンプレス (生命史大事件ファイル掲載)	H22.11.27
10	ホモ・エルガスター等の化石人類頭骨	7	福本徹之 (単行本「大日本人」掲載)	H22.12.1
11	糞化石等３点	3	株式会社ＴＢＳテレビ (飛び出せ！科学くん SP・再使用)	H22.11.27
12	ブラキオサウルス頭骨	1	株式会社美和企画 (週刊かがくる・再使用)	H23.2.22
13	ネアンデルタール人埋葬ジオラマ	1	紀行社（(株) 進学社「ワイド版歴史資料集での再使用)	H23.3.1
14	コウモリ骨格画像	1	テレビ朝日 (クイズタイムショック)	H23.3.21

(10) 燻蒸作業

番号	実施内容		実施日	受託者	使用薬剤
1	第二収蔵庫（生物	防虫	平成 22 年 6 月 21 日	中部資材	ヴァイケーン

	系）燻蒸		～26 日		
2	第１回燻蒸庫燻蒸	防虫 防カビ	平成 22 年 12 月 2 日 ～4 日及び 16～18 日	関東港業 株式会社	エキヒュームＳ
3	燻蒸庫保守点検ならびに 第２回燻蒸庫燻蒸	防虫 防カビ	平成 23 年 2 月 14 日 ～17 日	関東港業 株式会社	エキヒュームＳ

(11) 資料修復

① プラテカルプス

常設展示Ａ－３（恐竜の時代）に展示されているプラテカルプス（モササウルス類；海生爬虫類の一種）全身骨格のうち、頭蓋の額にあたる部分が完全に破断している状態で発見された。組立当時の写真を見ると、破断した箇所付近に接着した痕跡が見られるので、その際の接着が十分でなかったか、その時の接着部分のすぐそばが経年変化によって脆くなって破断した可能性がある。

いずれであっても放置しておくと、破断部分を中心に頭蓋の前部と後部を接続している部分が全て破断し、頭骨前半部が脱落・落下して破損し、標本の価値が著しく損なわれる可能性が出てきたことから、その修復を行った。

発見直後には、ただちに接着剤を用いて破断部分を仮止めし、さらに頭蓋の前部と後部を銅線で固定することで応急処置とした。その後、化石の組立等を扱う専門業者に修理を依頼した。この修理の際には、頭骨をいったん全身骨格から外して、ゆがみなどをできるだけ補正しつつパテによる充填、接着剤による再接着を行った。頭骨全体もできるだけ強化して、再度全身骨格に取り付けた。

(12) 科学系博物館情報ネットワーク開発事業自然史標本データ整備事業

国立科学博物館のＳＮｅｔ（科学系博物館情報ネットワーク開発事業）及びＧＢＩＦ（地球規模生物多様性情報機構）の生物標本収蔵データベースネットワークへの参加に伴い、当館の収蔵データベースシステムにあるデータの加工・変換を行った.

・変換データ数：8,335 件
・データ変換委託事業期間：平成 22 年 12 月 15 日～2 月 25 日
・データ変換業務委託先：株式会社 K-Bix

４ 調査研究

(1) 長野原・東吾妻町地域調査

平成 20 年度から 22 年度までの 3 ヵ年にわたり、県北西部の吾妻郡長野原町（川原畑、川原湯、横壁、林、長野原地区）東吾妻町（松谷）を対象として動植物の総合的な調査を実施した。対象地域は八ッ場ダム建設に伴う、移転代替地の整備や、道路・鉄道等の付け替え工事が進んでいる。当館にはこの地域の標本が少ないため標本を収集し、学術情報と共に蓄積していくことが必要との判断から調査地域とした。

① 調査内容

・哺乳類　:ネズミ類を中心に、トラップによる捕獲
・両生類・爬虫類　:カエル・ヘビ類を中心に捕獲
・昆虫類　:捕虫網・トラップによる捕獲
・無脊椎動物　:軟体動物を中心に捕獲
・高等植物・蘚苔類・地衣類　:採集
・菌類　:採集

② 調査日および調査内容

第 1 回　4 月 29 日　昆虫類
第 2 回　5 月 20 日　無脊椎動物
第 3 回　5 月 21 日～22 日　昆虫類
第 4 回　5 月 27 日～28 日　小型哺乳類・昆虫類
第 5 回　6 月 17 日～18 日　昆虫類
第 6 回　6 月 23 日　高等植物
第 7 回　6 月 24 日～25 日　昆虫類
第 8 回　6 月 27 日　無脊椎動物
第 9 回　7 月 10 日　無脊椎動物
第 10 回　7 月 15 日　昆虫類
第 11 回　7 月 29 日～30 日　昆虫類
第 12 回　8 月 26 日　無脊椎動物
第 13 回　8 月 28 日～29 日　昆虫類
第 14 回　8 月 31 日　菌類
第 15 回　9 月 8 日～9 日　小型哺乳類
第 16 回　9 月 11 日　無脊椎動物
第 17 回　9 月 25 日　高等植物
第 18 回　9 月 26 日　高等植物
第 19 回　9 月 29 日　小型哺乳類
第 20 回　9 月 30 日　小型哺乳類・菌類
第 21 回　10 月 2 日　無脊椎動物
第 22 回　10 月 21 日　菌類
第 23 回　11 月 5 日　無脊椎動物
第 24 回　11 月 8 日　菌類
第 25 回　11 月 17 日　小型哺乳類・無脊椎動物
第 26 回　11 月 18 日　小型哺乳類

(2) 山中層群の古生物学的研究

多野郡西部や甘楽郡西部に分布する山中層群は、群馬県を代表する中生代白亜紀前期の地層であり、当時の河口から海に堆積したものである。この地層からは既に恐竜やアンモナイト、植物など様々な化石が報告されているが、近年、この山中層群から多数のサメ類化石の産出が知られるようになった。白亜紀前期のサメ類群集は、現代型サメ類の発展を考える上で重要であるが、世界的に見てもその概要すら明らかでない。

本調査研究は、平成 17 年度から 19 年度にかけて実施した調査研究を継続するものであり、神流町恐竜センターと共同で山中層群（主に瀬林層）の発掘調査を行い、当時の生物相を明らかにすることを目的として実施している。

① 調査等活動の実施日とその内容

	実施日	活動内容	活動場所
第 1 回	4 月 10 日	研究打合せ	自然史博物館
第 2 回	6 月 12 日	学会発表（瀬林層産大型硬骨魚類化石について）	筑波大学
第 3 回	9 月 3 日	研究打合せ	自然史博物館

第 4 回	12 月 24 日	研究打合せ	自然史博物館
第 5 回	1 月 21 日	研究打合せ	神流町恐竜センター
第 6 回	2 月　5 日	研究打合せ	自然史博物館
第 7 回	2 月 11 日	データ整理	神流町恐竜センター

②　調査概略

平成 22 年度については、これまでに掘削され、その後神流町内に集積・保管してある瀬林層の脊椎動物化石多産層準の岩塊からの化石の探査ならびにその剖出作業を引き続いて実施した。そして本年度が三年間を一つの単位として実施している調査研究の最終年度であることから、自然史博物館調査報告書第５号に掲載するための原稿作成を行った。

化石探査の作業は、これまでと同様、神流町恐竜センターが募集した「神流で恐竜見つけ隊」参加者の協力によるものである。調査開始時と比べ、産出量は減少しているものの、サメ類や軟体動物などの化石が確認された。これらの標本を整理した結果、今回の三カ年においては、345 点の標本を得ることができた。剖出作業については、恐竜センターの佐藤、久保田を中心に行われた。

調査報告書では、本調査研究の概要、石堂層産のサメ化石（上村英雄氏寄贈）などについては髙桒が、またパキコルムス科と考えられる大型魚類の歯化石については、恐竜センターの久保田がそれぞれ中心となって原稿を作成した。これに関連して、平成 22 年に開催された日本古生物学会 2010 年年会では、久保田を筆頭演者として、上記の大型魚類の歯化石に関する学会発表を行った。

(3)　群馬県立自然史博物館自然史調査報告書第 4 号の発行

本年度は上記 2 件の調査研究事業が 3 カ年計画の最終年度にあたることから、それぞれの調査研究の成果をまとめた自然史調査報告書第 4 号を発行した（発行部数：400 部）。

(4)　美術館・博物館調査研究

①「ミニ展示：未来予想図ーかわりゆく自然」

平成 19 年 11 月に「第 3 次生物多様性国家戦略」が策定され、平成 20 年 10 月に日本で「生物多様性条約第 10 回締結国会議」（ＣＯＰ１０）が開催されるにあたり、群馬県の自然環境や自然史について県民に伝える場を創り、「生物多様性」の意義・価値を普及することを目的とした。地球規模の環境変動について調査を行い、また、現在の群馬の自然環境についてより詳細を把握するための調査を強化した。具体的には、県自然環境課と連携し、生物多様性に関する基礎調査を行うとともに、その成果を展示に反映することとした。本事業の成果は、特別展「ぐんまの自然とめぐみ」の一部として使用した。

②「モロッコ産恐竜の古生物学的研究」

日本の国内各地で見つかっている様々な恐竜の中でも、スピノサウルス類は群馬のみでしか　見つかっていない恐竜であり、本県を開館 15 周年となる平成 23 年夏期に開催を予定してい

るスピノサウルスを中心とした巡回企画展において、当館独自の研究成果を加えるために、当館に所蔵されているモロッコ産の白亜紀恐竜化石について研究を行った。本事業

の経費で取得したスピノサウルス類脊椎化石レプリカについては、上述の企画展で展示予定である。

③「群馬県及び周辺地域産のイネ科植物の分類地理学的研究」

イネ科植物は群馬県植物誌改訂版(1987)からは 222 種類（品種含む）が記録されていたが、分類学的な検討は十分とはいえなかった。今年度新たに嬬恋村からエゾカモジグサの自生が明らかになった。また、過去の収蔵標本や近年の採集品の中から在来種ヨコヤマタツノヒゲが同定されたほか、亜熱帯原産の外来種のナピアグラスやシンクリノイガ、タツノツメガヤが群馬県から採集されていたことが明らかになった。これらの知見や標本を含めて、平成 25 年度秋に予定されている企画展「稲もすすきも芝も竹だってぜんぶイネ科（仮称）」で紹介する予定である。

(5) 野生動物モニタリング調査

群馬県内に生息する野生動物について、長期的なモニタリング調査を継続している。ツキノワグマ、ニホンジカ、ニホンカモシカ、ニホンイノシシ、ニホンザルについては、県特定鳥獣保護管理計画に必要な科学的基礎調査として、検体を回収・分析・報告している。また、特定外来種の分布拡散状況と生息状況の調査を、アメリカミンク、アライグマを対象に実施している。検体分析の他に、カメラトラップ調査も継続して行っている。特定外来種と移入種（ハクビシン）、在来種（タヌキ、アナグマなど）との競合状況の調査も、検体分析およびカメラトラップ調査により実施している。検体分析数は、年間 500 体以上である。

周期的に農作物被害を発生させるネズミ類については、下仁田町において、地元行政担当者と連携して、シャーマントラップによる調査を継続している。この他、県レッドデータに関わる希少種についても、現地調査を継続している。

(6) 群馬県立自然史博物館研究報告第 15 号の発行

内容は、論文 16 編（原著論文 8、短報 4、資料 3、技術報告 1）である（発行部数：400 部）。

(7) 外部研究資金による事業

①□環境省個体数調整事業（受託・県自然環境課、学芸係・姉崎智子）

赤城山におけるニホンジカ個体数調整事業において捕獲されたニホンジカ 107 体について、年齢査定、繁殖状況の分析、食性の分析を行い、報告した。また、毎月 2 日、夜間において自然環境課と共同でライトセンサス調査を実施し、シカの生息数の変動の把握に努めた。

② 文部科学省科学研究費補助金

Ａ．基盤研究Ｂ：１人又は複数の研究者が共同して行う独創的・先駆的な研究

岩陰遺跡の生物考古学的研究－長野県北相木村ノンコ岩Ⅰ遺跡の学際的調査

（平成 22 年度～平成 24 年度：研究代表者 本郷一美・総合研究大学院大学・葉山高等研究センター、研究分担者：学芸係・姉崎智子）

本事業は、生物考古学の手法により群馬県・長野県など内陸部の岩陰遺跡における先史時代の環境と人間活動を総合的に研究することを目的としている。特に、動植物遺体などの有機遺物を、自然科学的分析を用いて高精度な古環境状況の抽出を行い、高解像度の古植生と動物相のデータを解析し、蓄積するものである。

また、生物科学、分析化学、先史人類学、考古学など各分野で最先端の研究を行っている研究者がチームを組織し、それぞれの専門を生かした役割を担う本プロジェクトは、先史時代の古環境と人間活動を復元するプロジェクトのモデルケースとなるものである。

B．若手研究Ｂ：１人の若手研究者が行う独創的・先駆的な研究
三葉虫はスキソクローラル・アイでどのように物を見ていたか
（平成 22 年度～24 年度：研究代表者　学芸係・田中源吾）

本研究は、生物学的、古生物学的、光学的手法によりファコプス類の三葉虫のみが持っていたスキソクローラル・アイ（日本語で，集合複眼と呼ばれることもある）が光学的にどのようなシステムで物を見ていたのかを復元するものである。スキソクローラル・アイの視力は、古生物学上、大きな謎の１つとされている。田中はスキソクローラル・アイが現生のクモの単眼やネジレバネの複眼に形態的に類似することを突き止め、スキソクローラル・アイの網膜の密度を見積もった。その結果、1 平方ミリメートルあたり 4 万個の網膜細胞がスキソクローラル・アイに存在していただろう事を突き止めた。スキソクローラル・アイを持つ三葉虫には群馬県、桐生市で発見された三葉虫（シュードフィリップシア・キリウエンシス）がある。群馬県産ものも含め、三葉虫が太古の海の中の世界をどのように見ていたのか、復元できる可能性が高まってきた。以下に研究内容を挙げる。

・暗黒バエの視覚器官の退化に関する共同研究：本研究課題は、田中が主体となり、京都大学理学部生物物理学教室の阿形清和教授と同じく京都大学理学部地質学鉱物学教室の前田晴良准教授との共同研究である。50 年間暗黒下で飼育され続けているショウジョウバエの個眼の表面に見られる乳頭状突起の消失について、光学的、組織学的、分子生物学的側面から検討をおこなった。

・岡山大学医学部の古谷真寿美技術員とともに、節足動物の眼の透過型電子顕微鏡を用いた形態観察をおこなった。

・例外的に保存された化石節足動物の光学器官の機能と進化：本研究課題は、英国レスター大学教授デイビッド・シベター教授と、英国自然史博物館動物部門アンドリュー・パーカー教授との共同研究である。世界中の化石をターゲットとし、保存の良い光学器官の化石についてその機能の復元と進化学的な意義について解明することを目的とする。

③ 群馬県自然環境調査研究会（植物：大森、哺乳類：姉崎、地形・地質：田中）

群馬県の自然環境を調査・資料収集・記録する基礎調査を行っている。本年度は、通常の良好な自然環境を有する地域学術調査に加え、植物・動物部門では、県レッドデータブック改訂のための基礎調査を行った。

④ 京都大学霊長類研究所共同利用研究

「現生および考古遺跡出土ニホンザルの骨形態変異に関する研究」（学芸係・姉崎）

本事業は、現生ニホンザルの骨形態学的な地理的変異の成立過程について明らかにし、現生資料と考古資料の比較を通して、時空間的な形態変異について明らかにすることを目的としている。サルの骨格と臼歯サイズの地理的変異には異なる傾向が認められることから、身体計測データと骨格、臼歯サイズの相関を検討する必要がある。本年度は、群馬県で捕殺されたサル 30 個体を剖検し、データ整備・骨標本化・計測を行うとともに、神奈川県生命の星・地球博物館で新規に収蔵された骨格 30 体を計測・分析した。

5 情報システム

自然史博物館情報システムは平成 20 年度より第三次システムの運用を開始した。システム概要は以下の通りである。情報システムは 5 つのサブシステムから構成されており、これらが相互連携して機能することにより、来館者、外部利用者、館職員が利用しやすいように設計されている。

(1) 収蔵品管理システム

収蔵資料の属性データをデジタル化して一元管理するためのシステムである。データは属性情報だけでなく画像等の管理も行っている。また、一元管理されたデータは、展示情報システム、普及広報システムと連携を図り有効活用している。使用しているソフトウェアは MusethequeV3　である。

(2) 展示情報システム

情報コーナー展示システム、常設展示用展示システム、来館案内（プラズマディスプレイ）の 3 つからなる。収蔵情報・クイズ・ビデオ・図書情報が簡単な操作で見られるように構成されており、館内の情報コーナー及び各展示コーナーの端末で利用できる。収蔵情報は収蔵品管理システムと連動しており、新たな収蔵品の情報を直ちに見ることができる。ビデオ番組は、群馬県内の自然環境および景勝地などを過去に撮影したもの等、合計 200 タイトルを保有している。来館案内は、企画展、イベントの情報を常時配信している。

(3) 図書文献管理システム

館所蔵の図書文献を管理し、図書情報の検索に活用している。収蔵情報は展示情報システム、普及広報システムに反映され、来館者が図書室、情報コーナーに保管している図書を検索できる。

(4) 普及広報システム

インターネット上で、イベント、博物館活用ネットワーク、友の会、ボランティア、収蔵品、図書、博物館実習等の各情報や、施設案内・博物館だよりなどを紹介している。展示室・イベント情報については動画配信を行っている。学習用ワークシート、調査報告書、博物館便り（デメテール）は、すべて HP からダウンロードできる。また、イベントや団体・学校利用に関する質問、博物館の資料・展示・研究に関する質問、システム・ホームページに関する質問についてそれぞれ電子メールでの対応も行っている。

(5) 学習支援システム

学校から学年単位などの団体で来館し、展示室で課題解決学習を行いたいという要望に応える形で作成したプログラムである。児童・生徒が各コーナーの展示資料の見方や展示場所をコンピュータで調べ、実物の資料を観察ながら学習できるシステムである。

6　広報・出版事業

(1)　広報（情報発信）・広告・取材

博物館の広報誌「デメテール(群馬県立自然史博物館だより)」を年 3 回、イベントカレンダーを年 2 回発行し配布するとともに、各企画展に際してポスター・チラシを学校、関係機関、友の会会員等に配布した。また、見学予定の団体に対してプロモーション用ビデオの貸出を行った。さらに写真･資料を雑誌･広報誌等に提供し、館および企画展を紹介した。

①□プロモーション用ビデオの貸出

平成 22 年度貸出件数　114 件

②　活字媒体への資料提供

出版社等の名称	掲載誌（紙）	発行日（号）	内容
上毛新聞社	グラフぐんま４月号	2010.4	サイエンス・サタデー「オオムラサキのペーパークラフトをつくろう」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞「ぐんまちゃんの掲示板」	2010.4.1	サイエンス・サタデー「オオムラサキのペーパークラフトをつくろう」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞「ぐんまちゃんの掲示板」	2010.4.4	ファミリー自然観察会「生きものみっけ隊①-タンポポを探そう-」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞「ぐんまちゃんの掲示板」	2010.4.8	企画展講演会「むし 虫 ウォッチング」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞「テレナイン」	2010.4.10	読者プレゼント「むし 虫 ウォッチング」
富岡市・甘楽町	夢ふうせん（76 号）	2010.5	博物館イベント情報の紹介
富岡市	広報とみおか	2010.5	企画展講演会「むし 虫 ウォッチング」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞「ぐんまちゃんの掲示板」	2010.5.4	サイエンス・サタデー「火山灰から宝石を見つけよう」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞	2010.5.27	「キジ」に関する紹介
中木新聞店	ニューライフ富岡	2010.6	講演会「群馬のチョウの保全と赤城山のヒメギフチョウ」の紹介
県広報課	ぐんま広報	2010.6	講演会「群馬のチョウの保全と赤城山のヒメギフチョウ」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞「ぐんまちゃんの掲示板」	2010.6.3	ファミリー自然観察会「いのちを育む林①」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞「ぐんまちゃんの掲示板」	2010.6.4	サイエンス・サタデー「キャベツで紙をつくろう」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞「ぐんまちゃんの掲示板」	2010.6.8	博物館探検隊の紹介
朝日新聞社	朝日ぐんま	2010.6.8	講演会「群馬のチョウの保全と赤城山のヒメギフチョウ」の紹介
中木新聞店	ニューライフ富岡	2010.6.26	第３６回企画展「石になったものの記録」の紹介
パリッシュ出版	月刊パリッシュ	2010.7	博物館の紹介
上毛新聞社	上毛新聞	2010.7.9	新属・新種「ジョウモウクジラ」について
科学技術振興機構	サイエンスウインドウ	2010.7.10	第３６回企画展「石になったものの記録」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞	2010.7.10	群馬プレＤＣ宿題イベントの紹介
上毛新聞社	上毛新聞「ぐんまちゃんの掲示板」	2010.7.18	企画展講演会「まとった鎧のひみつ」の紹介

信濃毎日新聞社	信濃毎日新聞	2010.7.22	第３６回企画展「石になったものの記録」の紹介
桐生タイムズ社	わたらせ	2010.7.24	新属・新種「ジョウモウクジラ」記者発表の様子
東日本旅客鉄道株式会社	トランベール	2010.8	第３６回企画展「石になったものの記録」の紹介
上毛新聞社	グラフぐんま８月号	2010.8	サイエンス・サタデー「三葉虫のレプリカをつくろう」の紹介
中木新聞店	ニューライフ富岡	2010.8	サイエンス・サタデー「クルクル絵本でつくるぐんまの恐竜」の紹介
日経ＢＰ社	日経エンタテインメント	2010.8	博物館の紹介
上毛新聞社	上毛新聞「ぐんまちゃんの掲示板」	2010.8.5	サイエンス・サタデー「三葉虫のレプリカをつくろう」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞「ぐんまちゃんの掲示板」	2010.8.5	企画展自然教室「三葉虫を調べよう」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞	2010.8.13	第３６回企画展「石になったものの記録」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞「ぐんまちゃんの掲示板」	2010.8.17	企画展自然教室「恐竜時代のコハクでストラップをつくろう」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞「ぐんまちゃんの掲示板」	2010.9.3	サイエンス・サタデー「クルクル絵本でつくる群馬の恐竜」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞「ぱれっと」	2010.9.10	ミュージアムナイトツアーの紹介
上毛新聞社	上毛新聞「ぱれっと」	2010.9.17	ファミリー自然観察会「いのちを育む林②」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞「ぐんまちゃんの掲示板」	2010.9.18	移動博物館の紹介
群馬東部よみうり新聞社	ビバ！アミーゴ	2010.10.1	ミュージアムナイトツアーの紹介
上毛新聞社	上毛新聞「ぐんまちゃんの掲示板」	2010.10.6	企画展講演会「化石研究うちあけ話」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞「ぐんまちゃんの掲示板」	2010.10.9	ミュージアムナイトツアーの紹介
上毛新聞社	上毛新聞「ぐんまちゃんの掲示板」	2010.10.13	天体観望会「夏と秋の星座、そして月」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞「ぱれっと」	2010.10.16	企画展講演会「化石研究うちあけ話」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞「ぐんまちゃんの掲示板」	2010.10.16	企画展自然教室「恐竜時代のコハクでストラップをつくろう」の紹介
県広報課	ぐんま広報	2010.11	講演会「天体写真で伝える星空の魅力」の紹介
朝日新聞社	朝日ぐんま	2010.11.2	第３６回企画展「石になったものの記録」リニューアルの紹介
上毛新聞社	上毛新聞「ぐんまちゃ	2010.11.2	ミュージアムナイトツアーの紹介

	んの掲示板」		
上毛新聞社	上毛新聞「ぐんまちゃんの掲示板」	2010.11.10	ファミリー自然観察会「生きものみっけ隊③－野鳥を探そう－」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞「ぐんまちゃんの掲示板」	2010.11.11	サイエンス・サタデー「松ぼっくりでクリスマスツリーをつくろう」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞「ぱれっと」	2010.11.19	ファミリー自然観察会「生きものみっけ隊③－野鳥を探そう－」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞「ぐんまちゃんの掲示板」	2010.12.2	サイエンス・サタデー「松ぼっくりでクリスマスツリーをつくろう」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞「ぐんまちゃんの掲示板」	2010.12.8	講演会「WILD アジア -アジア野生王国へようこそ-」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞「ぐんまちゃんの掲示板」	2010.12.15	天体観望会「秋と冬の星座、そして木星と天王星」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞「ぐんまちゃんの掲示板」	2010.12.16	第１回バックヤードツアーの紹介
日本経済新聞社	日本経済新聞	2010.12.17	講演会「WILD アジア -アジア野生王国へようこそ-」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞「ぐんまちゃんの掲示板」	2010.12.19	チャレンジ講座「岩石コース」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞	2010.12.25	写真展「WILD アジア -アジア野生王国へようこそ-」の紹介
日本経済新聞社	日本経済新聞	2010.12.26	「進化のビッグバン－目の誕生－」の紹介
中木新聞店	ニューライフ富岡	2010.12.26	講演会「WILD アジア -アジア野生王国へようこそ-」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞「ぐんまちゃんの掲示板」	2010.12.28	ファミリー自然観察会　「生きものみっけ隊④－冬越ししている昆虫を探そう－」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞「ぐんまちゃんの掲示板」	2011.1.5	サイエンス・サタデー「動物の足あとスタンプをつくろう」の紹介
群馬東部とみうり新聞社	ビバ、アミーゴ	2011.1.7	写真展「WILD アジア -アジア野生王国へようこそ-」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞「ぐんまちゃんの掲示板」	2011.1.7	チャレンジ講座「化石コース」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞「ぐんまちゃんの掲示板」	2011.1.11	天体観望会「冬の星座、そしてオリオン大星雲と月」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞「ぐんまちゃんの掲示板」	2011.1.13	第２回バックヤードツアーの紹介
朝日新聞社	朝日ぐんま	2011.1.18	自然史博物館催しの紹介
県広報課	ぐんま広報	2011.2	移動博物館の紹介
上毛新聞社	グラフぐんま２月号	2011.2	天体観望会「秋と冬の星座、そして木星と天王星」の紹介

上毛新聞社	グラフぐんま２月号	2011.2	サイエンス・サタデー「北極星を見つける星座盤をつくろう」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞「ぐんまちゃんの掲示板」	2011.2.5	サイエンス・サタデー「北極星を見つける星座盤をつくろう」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞「ぱれっと」	2011.2.18	移動博物館の紹介
朝日新聞社	朝日ぐんま	2011.2.25	第３７回企画展「脳を学ぶ　脳で学ぶ」の紹介
県広報課	ぐんま広報	2011.3	企画展講演会「中学生が分かる！最新脳科学」
中木新聞店	ニューライフ富岡	2011.3	第３７回企画展「脳を学ぶ　脳で学ぶ」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞「ぐんまちゃんの掲示板」	2011.3.5	サイエンス・サタデー「からくりカレンダーをつくろう」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞	2011.3.8	北関東全線開通イベントの紹介
日経サイエンス	日経サイエンス	2011.3.25	第３７回企画展「脳を学ぶ　脳で学ぶ」の紹介

③ 取材対応

東京新聞社	東京新聞	2010.4.17	新属・新種「ジョウモウクジラ」記者発表の様子
朝日新聞社	朝日新聞	2010.4.17	新属・新種「ジョウモウクジラ」記者発表の様子
読売新聞社	読売新聞	2010.4.17	新属・新種「ジョウモウクジラ」記者発表の様子
毎日新聞社	毎日新聞	2010.4.17	新属・新種「ジョウモウクジラ」記者発表の様子
産経新聞社	産経新聞	2010.4.17	新属・新種「ジョウモウクジラ」記者発表の様子
上毛新聞社	上毛新聞	2010.4.17	新属・新種「ジョウモウクジラ」記者発表の様子
桐生タイムズ社	桐生タイムズ	2010.4.17	新属・新種「ジョウモウクジラ」記者発表の様子
産経新聞社	産経新聞	2010.4.24	新属・新種「ジョウモウクジラ」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞	2010.5.27	特別展示「ミヤコタナゴ」の紹介
朝日新聞社	朝日新聞	2010.5.28	特別展示「ミヤコタナゴ」の紹介
朝日新聞社	朝日ぐんま	2010.5.29	特別展示「ミヤコタナゴ」の紹介
毎日新聞社	毎日新聞	2010.5.29	講演会「ジョウモウクジラ」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞	2010.6.2	常設展Ｅコーナー「地球環境」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞	2010.7.10	博物館の裏側（研究・資料収集・収蔵）紹介
上毛新聞社	上毛新聞	2010.7.18	第３６回企画展「石になったものの記録」の紹介
朝日新聞社	朝日ぐんま	2010.7.22	サイエンス・サタデー「三葉虫のレプリカをつくろう」の紹介

朝日新聞社	朝日ぐんま	2010.7.23	第３６回企画展「石になったものの記録」の紹介
朝日新聞社	朝日ぐんま	2010.7.23	博物館の紹介
富岡市	広報とみおか	2010.8	自然史博物館ボランティアの紹介
朝日新聞社	朝日新聞「花まる先生」	2010.8.8	子どもﾐｭｰｼﾞｱﾑｽｸｰﾙ（ネズミコース）の紹介
上毛新聞社	上毛新聞	2010.8.11	自然史博物館探検隊の紹介
山久新聞社	かぶら	2010.8.15	夏休み宿題ツアーの紹介
朝日新聞社	朝日新聞	2010.9.12	特別展示「ぐんまの自然とめぐみ」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞	2010.9.24	第３６回企画展「石になったものの記録」リニューアルの紹介
上毛新聞社	上毛新聞	2010.10.12	特別展「ぐんまの自然とめぐみ」群馬の生物多様性連載記事
上毛新聞社	上毛新聞	2010.10.13	特別展「ぐんまの自然とめぐみ」群馬の生物多様性連載記事
上毛新聞社	上毛新聞	2010.10.14	特別展「ぐんまの自然とめぐみ」群馬の生物多様性連載記事
上毛新聞社	上毛新聞	2010.10.15	特別展「ぐんまの自然とめぐみ」群馬の生物多様性連載記事
上毛新聞社	上毛新聞	2010.10.16	特別展「ぐんまの自然とめぐみ」群馬の生物多様性連載記事
毎日新聞社	毎日新聞	2010.10.19	生物多様性に係る特別展示の紹介
上毛新聞社	上毛新聞	2010.11.6	特集「山を下りる動物」
上毛新聞社	上毛新聞	2010.11.13	「学校と博物館の連携（SPP 事業）」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞	2010.12.19	写真展「WILD アジア -アジア野生王国へようこそ-」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞	2010.12.20	「トナカイ・ウサギ」剥製特別展示の紹介
富岡市	広報とみおか	2011.1	「トナカイ・ウサギ」剥製特別展示の紹介
上毛新聞社	上毛新聞	2011.1.10	講演会「WILD アジア -アジア野生王国へようこそ-」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞	2011.1.21	写真展「WILD アジア -アジア野生王国へようこそ-」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞	2011.1.22	新春お年玉クイズの紹介
上毛新聞社	上毛新聞	2011.1.24	バックヤードツアーの紹介
上毛新聞社	シャトル「館林ニュース」	2011.2.19	移動博物館の紹介
上毛新聞社	上毛新聞	2011.2.20	移動博物館の紹介
朝日新聞社	朝日新聞	2011.2.23	絶滅危惧種「イトイバラモ」の紹介
読売新聞社	読売新聞	2011.2.23	絶滅危惧種「イトイバラモ」の紹介
毎日新聞社	毎日新聞	2011.2.23	絶滅危惧種「イトイバラモ」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞	2011.2.23	絶滅危惧種「イトイバラモ」の紹介

④電波媒体

アナウンサーによる原稿読み	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	サイエンス・サタデー「オオムラサキのペーパークラフトをつくろう」の紹介	2010.4
アナウンサーによる原稿読み	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	企画展講演会「むし 虫 ウォッチング」の紹介	2010.4
アナウンサーによる原稿読み	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	ファミリー自然観察会「生きものみっけ隊①-タンポポを探そう-」の紹介	2010.4
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭいせさき	まん中・ぐんま元気情報	サイエンス・サタデー「オオムラサキのペーパークラフトをつくろう」の紹介	2010.4
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭいせさき	まん中・ぐんま元気情報	企画展講演会「むし 虫 ウォッチング」の紹介	2010.4
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭいせさき	まん中・ぐんま元気情報	ファミリー自然観察会「生きものみっけ隊①-タンポポを探そう-」の紹介	2010.4
高橋　克之	ＦＭいせさき	まん中・ぐんま元気情報	企画展講演会「むし 虫 ウォッチング」の紹介	2010.4.6
高橋　克之	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	企画展講演会「むし 虫 ウォッチング」の紹介	2010.4.14
アナウンサーによる原稿読み	テレビ朝日	報道ステーション	新属・新種「ジョウモウクジラ」記者発表の様子	2010.4.17
アナウンサーによる原稿読み	ＮＨＫ	ニュース８４５	新属・新種「ジョウモウクジラ」記者発表の様子	2010.4.17
アナウンサーによる原稿読み	日本テレビ	news　every	新属・新種「ジョウモウクジラ」記者発表の様子	2010.4.17
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭ群馬	あさナビ	新属・新種「ジョウモウクジラ」展示の様子	2010.4.20
アナウンサーによる原稿読み	ＮＨＫ	朝ニュース	企画展講演会「むし 虫 ウォッチング」の紹介	2010.4.30
アナウンサーによる原稿読み	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	サイエンス・サタデー「火山灰から宝石を見つけよう」の紹介	2010.5
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭいせさき	まん中・ぐんま元気情報	サイエンス・サタデー「火山灰から宝石を見つけよう」紹介	2010.5
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭいせさき	まん中・ぐんま元気情報	講演会「群馬のチョウの保全と赤城山のヒメギフチョウ」の紹介	2010.5
アナウンサーによる原稿読み	ＮＨＫ	いっと６けん	新属・新種「ジョウモウクジラ」展示の様子	2010.5.18
岩井利信	ＦＭ群馬	ぐんま情報トッピング	講演会「群馬のチョウの保全と赤城山のヒメギフチョウ」の紹介	2010.5.20

武井郁也	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	講演会「群馬のチョウの保全と赤城山のヒメギフチョウ」の紹介	2010.5.21
高橋克之	ＦＭいせさき	まん中・ぐんま元気情報	講演会「群馬のチョウの保全と赤城山のヒメギフチョウ」の紹介	2010.5.25
アナウンサーによる原稿読み	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	サイエンス・サタデー「キャベツで紙をつくろう」の紹介	2010.6
アナウンサーによる原稿読み	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	博物館探検隊の紹介	2010.6
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭいせさき	まん中・ぐんま元気情報	ファミリー自然観察会「いのちを育む林①」の紹介	2010.6
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭいせさき	まん中・ぐんま元気情報	サイエンス・サタデー「キャベツで紙をつくろう」の紹介	2010.6
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭいせさき	まん中・ぐんま元気情報	博物館探検隊の紹介	2010.6
上原久志	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	ファミリー自然観察会「いのちを育む林①」の紹介	2010.6.4
上原久志	ＦＭいせさき	まん中・ぐんま元気情報	ファミリー自然観察会「いのちを育む林①」の紹介	2010.6.8
アナウンサーによる原稿読み	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	サイエンス・サタデー「ツバメ型グライダーをつくろう」の紹介	2010.7
アナウンサーによる原稿読み	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	ファミリー自然観察会「生きものみっけ隊①-セミのぬけがらを探そう-」の紹介	2010.7
アナウンサーによる原稿読み	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	企画展自然教室「三葉虫をしらべよう」の紹介	2010.7
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭいせさき	まん中・ぐんま元気情報	サイエンス・サタデー「ツバメ型グライダーをつくろう」の紹介	2010.7
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭいせさき	まん中・ぐんま元気情報	ファミリー自然観察会「生きものみっけ隊①-セミのぬけがらを探そう-」の紹介	2010.7
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭいせさき	まん中・ぐんま元気情報	企画展講演会「まとった鎧のひみつ～古生代の海の節足動物，三葉虫～」の紹介	2010.7
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭいせさき	まん中・ぐんま元気情報	企画展自然教室「三葉虫をしらべよう」の紹介	2010.7
高橋秀武	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	企画展講演会「まとった鎧のひみつ～古生代の海の節足動物，三葉虫～」の紹介	2010.7.6
高橋秀武	ＦＭ群馬	ぐんま情報トッピング	企画展講演会「まとった鎧のひみつ～古生代の海の節足動	2010.7.14

			物，三葉虫～」の紹介	
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭ群馬	あさナビ	企画展自然教室「三葉虫をしらべよう」の紹介	2010.7.26
アナウンサーによる原稿読み	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	サイエンス・サタデー「三葉虫のレプリカをつくろう」の紹介	2010.8
アナウンサーによる原稿読み	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	企画展自然教室「恐竜時代のコハクでストラップをつくろう」の紹介	2010.8
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭいせさき	まん中・ぐんま元気情報	サイエンス・サタデー「三葉虫のレプリカをつくろう」の紹介	2010.8
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭいせさき	まん中・ぐんま元気情報	ボランティアの募集	2010.8
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭいせさき	まん中・ぐんま元気情報	企画展自然教室「恐竜時代のコハクでストラップをつくろう」の紹介	2010.8
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭ群馬	あさナビ	サイエンス・サタデー「三葉虫のレプリカをつくろう」の紹介	2010.8.4
岩井　利信	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	ボランティアの募集	2010.8.12
岩井　利信	ＦＭ群馬	ぐんま情報トッピング	ボランティアの募集	2010.8.18
アナウンサーによる原稿読み	ＮＨＫ	ニュース15:00	企画展「石になったものの記録」の紹介	2010.8.23
岩井利信	ＦＭいせさき	まん中・ぐんま元気情報	ボランティアの募集	2010.8.24
アナウンサーによる原稿読み	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	サイエンス・サタデー「クルクル絵本でつくる群馬の恐竜」の紹介	2010.9
アナウンサーによる原稿読み	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	特別展「群馬の自然とめぐみ」の紹介	2010.9
アナウンサーによる原稿読み	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	ミュージアムナイトツアーの紹介	2010.9
アナウンサーによる原稿読み	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	ファミリー自然観察会「いのちを育む林②」の紹介	2010.9
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭいせさき	まん中・ぐんま元気情報	サイエンス・サタデー「クルクル絵本でつくる群馬の恐竜」の紹介	2010.9
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭいせさき	まん中・ぐんま元気情報	ファミリー自然観察会「いのちを育む林②」の紹介	2010.9
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭいせさき	まん中・ぐんま元気情報	ミュージアムナイトツアーの紹介	2010.9

アナウンサーによる原稿読み	ＦＭいせさき	まん中・ぐんま元気情報	特別展「群馬の自然とめぐみ」の紹介	2010.9
アナウンサーによる原稿読み	群馬テレビ	お出かけ情報	特別展示「群馬の自然とめぐみー生物多様性を持続させるためにー」の紹介	2010.9.3
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭ群馬	あさナビ	特別展示「群馬の自然とめぐみー生物多様性を持続させるためにー」の紹介	2010.9.10
アナウンサーによる原稿読み	ＮＨＫ	ニュース	企画展「石になったものの記録」の紹介	2010.9.13
上原久志	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	特別展示「群馬の自然とめぐみ」連続講座の紹介	2010.9.14
上原久志	ＦＭいせさき	まん中・ぐんま元気情報	特別展示「群馬の自然とめぐみ」連続講座の紹介	2010.9.14
アナウンサーによる原稿読み	ラジオ高崎	ニュース	企画展「石になったものの記録」の紹介	2010.9.14
武井郁也	ＦＭ群馬	ぐんま情報トッピング	特別展示「群馬の自然とめぐみ」連続講座の紹介	2010.9.16
アナウンサーによる原稿読み	群馬テレビ	お出かけ情報	企画展「石になったものの記録」リニューアルの紹介	2010.9.24
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭ群馬	ＦＭ群馬ニュース	企画展「石になったものの記録」リニューアルの紹介	2010.9.24
アナウンサーによる原稿読み	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	特別展示「群馬の自然とめぐみ」連続講座の紹介	2010.10
アナウンサーによる原稿読み	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	ミュージアムナイトツアーの紹介	2010.10
アナウンサーによる原稿読み	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	企画展講演会「化石研究うちあけ話」の紹介	2010.10
アナウンサーによる原稿読み	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	チャレンジ講座「植物コースー植物の採集、標本づくりに挑戦しようー」の紹介	2010.10
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭいせさき	まん中・ぐんま元気情報	企画展講演会「化石研究うちあけ話」の紹介	2010.10
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭいせさき	まん中・ぐんま元気情報	特別展示「群馬の自然とめぐみ」連続講座の紹介	2010.10
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭいせさき	まん中・ぐんま元気情報	ミュージアムナイトツアーの紹介	2010.10
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭいせさき	まん中・ぐんま元気情報	天体観望会「夏と秋の星座、そして月」の紹介	2010.10
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭ群馬	あさナビ	ミュージアムナイトツアーの紹介	2010.10.6
高橋秀武	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	天体観望会「夏と秋の星座、そして月」の紹介	2010.10.13
高橋秀武	ＦＭいせさき	まん中・ぐん	天体観望会「夏と秋の星座、	2010.10.19

		ま元気情報	そして月」の紹介	
高橋秀武	ＦＭ群馬	ぐんま情報トッピング	企画展講演会「化石研究うちあけ話」の紹介	2010.10.21
アナウンサーによる原稿読み	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	講演会「天体写真で伝える星空の魅力」の紹介	2010.11
アナウンサーによる原稿読み	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	天体観望会「皆既月食、そして秋と冬の星座」の紹介	2010.11
アナウンサーによる原稿読み	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	ファミリー自然観察会「生きものみっけ隊③－野鳥を探そう－」の紹介	2010.11
アナウンサーによる原稿読み	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	サイエンス・サタデー「カマラサウルスの歯のレプリカをつくろう」の紹介	2010.11
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭいせさき	まん中・ぐんま元気情報	講演会「天体写真で伝える星空の魅力」の紹介	2010.11
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭいせさき	まん中・ぐんま元気情報	天体観望会「皆既月食、そして秋と冬の星座」の紹介	2010.11
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭいせさき	まん中・ぐんま元気情報	ファミリー自然観察会「生きものみっけ隊③－野鳥を探そう－」の紹介	2010.11
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭいせさき	まん中・ぐんま元気情報	サイエンス・サタデー「カマラサウルスの歯のレプリカをつくろう」の紹介	2010.11
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭ群馬	あさナビ	講演会「天体写真で伝える星空の魅力」の紹介	2010.11.5
アナウンサーによる原稿読み	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	天体観望会「秋と冬の星座、そして木星と天王星」の紹介	2010.12
アナウンサーによる原稿読み	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	講演会「WILD アジア -アジア野生王国へようこそ-」の紹介	2010.12
アナウンサーによる原稿読み	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	サイエンス・サタデー「松ぼっくりでクリスマスツリーをつくろう」の紹介	2010.12
アナウンサーによる原稿読み	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	チャレンジ講座「岩石コース」の紹介	2010.12
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭいせさき	まん中・ぐんま元気情報	天体観望会「秋と冬の星座、そして木星と天王星」の紹介	2010.12
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭいせさき	まん中・ぐんま元気情報	講演会「WILD アジア -アジア野生王国へようこそ-」の紹介	2010.12
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭいせさき	まん中・ぐんま元気情報	サイエンス・サタデー「松ぼっくりでクリスマスツリーをつくろう」の紹介	2010.12
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭいせさき	まん中・ぐんま元気情報	チャレンジ講座「岩石コース」の紹介	2010.12
岩井利信	ラジオ高崎	群馬県からの	講演会「WILD アジア -アジア	2010.12.14

		お知らせ	野生王国へようこそ-」の紹介	
岩井利信	ＦＭいせさき	まん中・ぐんま元気情報	講演会「WILD アジア -アジア野生王国へようこそ-」の紹介	2010.12.16
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭ群馬	あさナビ	講演会「WILD アジア -アジア野生王国へようこそ-」の紹介	2010.12.21
アナウンサーによる原稿読み	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	第２回バックヤードツアーの紹介	2011.1
アナウンサーによる原稿読み	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	サイエンス・サタデー「動物の足あとスタンプをつくろう」の紹介	2011.1
アナウンサーによる原稿読み	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	ファミリー自然観察会「生きものみっけ隊④－冬越ししている昆虫を探そう－」の紹介	2011.1
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭいせさき	まん中・ぐんま元気情報	第２回バックヤードツアーの紹介	2011.1
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭいせさき	まん中・ぐんま元気情報	サイエンス・サタデー「動物の足あとスタンプをつくろう」の紹介	2011.1
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭいせさき	まん中・ぐんま元気情報	ファミリー自然観察会「生きものみっけ隊④－冬越ししている昆虫を探そう－」の紹介	2011.1
上原久志	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	第２回バックヤードツアーの紹介	2011.1.4
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭ群馬	あさナビ	ファミリー自然観察会「生きものみっけ隊④－冬越ししている昆虫を探そう－」の紹介	2011.1.10
上原久志	ＦＭいせさき	まん中・ぐんま元気情報	第２回バックヤードツアーの紹介	2011.1.13
アナウンサーによる原稿読み	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	移動博物館の紹介	2011.2
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭいせさき	まん中・ぐんま元気情報	移動博物館の紹介	2011.2
上原久志	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	サイエンス・サタデー「北極星を見つける星座盤をつくろう」の紹介	2011.2.1
上原久志	ＦＭいせさき	まん中・ぐんま元気情報	サイエンス・サタデー「北極星を見つける星座盤をつくろう」の紹介	2011.2.2
上原久志	ラジオ高崎	朝ラジ	第２回バックヤードツアーの紹介	2011.2.18
アナウンサーによる原稿読み	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	サイエンス・サタデー「からくりカレンダーをつくろう」の紹介	2011.3
アナウンサーに	ＦＭいせさき	まん中・ぐん	サイエンス・サタデー「から	2011.3

よる原稿読み		ま元気情報	くりカレンダーをつくろう」の紹介	
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭいせさき	まん中・ぐんま元気情報	自然教室　「解剖して脳を探そう」の紹介	2011.3
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭいせさき	まん中・ぐんま元気情報	企画展講演会　「中学生が分かる！最新脳科学」の紹介	2011.3
上原久志	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	企画展講演会　「中学生が分かる！最新脳科学」の紹介	2011.3.8
上原久志	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	自然教室　「解剖して脳を探そう」の紹介	2011.3.9
姉崎智子	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	企画展「脳を学ぶ　脳で学ぶ」の紹介	2011.3.16
姉崎智子	ＦＭいせさき	まん中・ぐんま元気情報	企画展「脳を学ぶ　脳で学ぶ」の紹介	2011.3.25
姉崎智子	ＦＭ群馬	ぐんま情報トッピング	企画展「脳を学ぶ　脳で学ぶ」の紹介	2011.3.30

(2)　出版物

種類	名　　称	規格	頁数	部数
博物館だより	自然史博物館だより「デメテール」No48	A4 版 2p ｶﾗｰ・6p2 色	4	10,000
	自然史博物館だより「デメテール」No49	A4 版 2p ｶﾗｰ・6p2 色	4	10,000
	自然史博物館だより「デメテール」No50	A4 版 2p ｶﾗｰ・6p2 色	4	10,000
ポスター	第 36 回企画展ポスター	B2 版ｶﾗｰ		3,000
	第 37 回企画展ポスター	B2 版ｶﾗｰ		3,000
企画展・特別展リーフレット	第 36 回企画展前半	A4 版ｶﾗｰ		110,000
	第 36 回企画展後半	A4 版ｶﾗｰ		30,000
	第 37 回企画展	A4 版ｶﾗｰ		60,000
	特別展「群馬の自然とめぐみ」	A4 版ｶﾗｰ		20,000
	生物多様性学習ワークシート	A4 版ｶﾗｰ	3	各 200
企画展図録	第 36 回企画展図録	A4 版ｶﾗｰ	52	1,000
	第 37 回企画展解説シート（13 枚）	A4 版ｶﾗｰ	2	各 8,000
	群馬の生物多様性パンフレット	A4 版ｶﾗｰ	4	5,000
リーフレット	イベントカレンダー 2010.10～2011.3	A4 版 表ｶﾗｰ・裏１色		25,000
	イベントカレンダー 2011.4～2011.9	A4 版 表ｶﾗｰ・裏１色		25,000
研究報告	研究報告 15 号	A4 版一部ｶﾗｰ	192	650

7　ボランティア等支援活動

(1)　ボランティア活動

今年度は 4 区分(解説・発送・資料整理・サタデー)で活動を行った。解説ボランティア、資料整理ボランティア、サタデーボランティアを募集し、新規 9 名が加わった。

①　ボランティア登録状況

2009 年度末	新　規	再登録	休止	辞　退	2010 年度末
85 名	9 名	3 名	5 名	7 名	85 名

②　ボランティア活動状況

一人三分野まで活動できることとした。（登録人数は重複あり）

分　　野	登録人数	活動回数
解　説	26	269
発　送	22	33
資料整理	12	155
サイエンス・サタデー	38	196
合　　計	98	653

③　ボランティア基礎学習会

ボランティアの基礎知識向上と生涯教育の一環、ボランティアと職員との交流をねらいとして基礎学習会を行った。

日　　時	2011 年 3 月 13 日(日) 13:30～15:00
参加人数	14 名
場　　所	実験室
テーマ	にわとりの脳を見てみよう
講　　師	学芸係　姉崎　智子

④　サタデーボランティア新規メニュー検討会

新規のメニューの説明内容・作成方法等を習得するとともに、改善点を話し合った。

テーマ	松ぼっくりでクリスマスツリーをつくろう	春の山菜カードをつくろう
講　師	教育普及係　高橋秀武	学芸係　大森威宏
日　時	11 月 27 日(土) 15:15～16:45	3 月 12 日(土) 15:15～16:30
参加者	7 名	5 名

⑤　富岡市ボランティアフェスティバル

富岡市内を主な活動拠点とするボランティア団体が参加するイベントで、博物館ボランティアの活動の紹介や自然史博物館のＰＲを目的として参加し、ミニ移動博やミニ科学教室を開催した。

日　　時	2011 年 1 月 23 日(日)10:00～15:00
参加人数	19 名
場　　所	富岡市生涯学習センター　エントランス

⑥　ボランティア全体会

ボランティア全体会を 1 回実施した。内容は、名誉館長を含めた館職員といっしょ

に、一年間の活動の反省と課題について意見交換を行った。

日　　時	2011 年 3 月 13 日(日)10:00～12:30
参加人数	32 名（内職員 7 名）
場　　所	大会議室

(2)　友の会

①　平成 22 年度会員数　259 名

〈内 訳〉

個人会員	40 名
家族会員	39 家族
賛助会員	16 団体・個人

②　総会・講演会

日　　時	2010 年 5 月 23 日(日)
参加人数	26 名
講　　師	名誉館長　長谷川善和　　学芸係　木村敏之

③　友の会博物館等視察研修会

日　　時	2010 年 11 月 7 日(日)　　7:30～18:00
場　　所	栃木県立博物館　木の葉化石園
参加人数	37 名

④ フィールド活動・体験活動

	モリアオガエルの観察	池の平湿原で高山植物の観察	バックヤードツアー
講　師	金井賢一郎	里見哲夫･堀越武男	学芸係　木村敏之
日　時	7 月 4 日(日) 10:00～14:00	8 月 21 日(土) 10:00～14:00	3 月 6 日（日） 10：30～11：30
参加者	23 名	18 名	4 名

⑤ 友の会通信

	第 23 号	第 24 号
発　行　日	8 月 20 日(金)	2 月 1 日(火)
編集委員会	6 月 26 日(土)	12 月 16 日(木)
場　　所	中会議室	中会議室
発 行 部 数	500 部	500 部

Ⅲ 資料

1　職員の委員会等委員就任状況

職・氏名	名称	依頼先	期　間
名誉館長 長谷川善和	埼玉県立自然史博物館資料評価委員会委員	埼玉県立自然史博物館	
	茨城県自然博物館資料評価委員会委員	茨城県自然博物館	～2011.3
	日本蛇族学術研究所理事	日本蛇族学術研究所	
	長野県飯田市美術博物館顧問	飯田市	

	日本洞窟学研究所理事	岩泉町	
	検討委員会委員－港川人の来た道－	沖縄県立博物館	2007
主幹　金井英男	日本理科教育学会関東支部評議員	日本理科教育学会	2003.4.1～
主幹　大森威宏	前橋市自然環境保全推進委員	前橋市生活環境部	H17.4.1～
	群馬県自然環境審議会委員	群馬県環境森林部	H21.3.25～
	群馬県 RDB 改訂（植物部門）検討委員長	群馬県自然環境調査研究会	H20.4.1～
	群馬県希少野生動植物保護条例（仮称）検討委員会	群馬県環境森林部	H22.12.17～
	環境省植物レッドリスト改訂群馬県主任調査員	日本植物分類学会	H22.9.1～
	すげの会幹事	すげの会	H20.5.7～
主幹（学芸員） 髙桑祐司	ジオパーク下仁田協議会委員	下仁田町	H22.3.2～
	自然史学会連合博物館部会委員	自然史学会連合	H22.1.1～
	化石研究会運営委員	化石研究会	H21.6.13～
副主幹　杉山直人	第 54 回日本学生科学賞・県審査会審査員	読売新聞社	
主任（学芸員） 木村敏之	修士論文外部審査員	東北大学	2011.1.19
主任（学芸員） 姉崎智子	群馬県ツキノワグマ保護管理検討会委員	群馬県環境森林部	H17.4.1～
	群馬県ニホンカモシカ保護管理検討会委員	群馬県環境森林部	H20.11.1～
	群馬県ニホンザル保護管理検討会委員	群馬県環境森林部	H22.3.9～
	群馬県ニホンイノシシ保護管理検討会委員	群馬県環境森林部	H21.8.28～
	群馬県ニホンジカ保護管理検討会オブザーバー	群馬県環境森林部	H20.9.1～
	群馬県 RDB 改訂(動物部門)検討委員	群馬県自然環境調査会	H20.4.1～
	環境省鳥獣保護管理調査コーディネーター	環境省自然環境局	H22.6.17～
主任（学芸員） 田中源吾	日本古生物学会会員係幹事	日本古生物学会	H20.6.30～

２　職員の研修会等講師としての派遣の状況

研　修　会　等　名　称	主　　催　　者	期　　日	派遣職員
小学校理科新指導要領導入に伴う研修会講師	富岡市立妙義小学校	平成 22 年 5 月 13 日	三田照芳
かぶら理科露頭調査（富岡・小野地区）講師	かぶら理科研究会	平成 22 年 8 月 12 日	三田照芳
かぶら理科露頭調査（小野地区）講師	かぶら理科研究会	平成 22 年 12 月 24 日	三田照芳
かぶら理科露頭調査（富岡地区）講師	かぶら理科研究会	平成 23 年 1 月 29 日	三田照芳
消費者向けキノコ教室講師	甘楽富岡食品衛生協会・富岡保健福祉事務所	平成 22 年 10 月 7 日	金井英男
紅葉狩り・キノコ観察と自然の家オープンデーに係るキノコ観察講師	群馬県立妙義青少年自然の家	平成 22 年 10 月 30 日	金井英男

群馬県自然保護指導員任命式に係る講習会講師	群馬県自然環境課	平成 22 年 4 月 12 日	大森威宏
かんな川水辺の楽校植生現地講習会講師	かんな川水辺の楽校運営協議会	平成 22 年 5 月 29 日	大森威宏
かんな川水辺の楽校開校式に係る自然観察会講師	かんな川水辺の楽校運営協議会・国土交通省関東地方整備局高崎河川国道事務所	平成 22 年 7 月 5 日	大森威宏
尾瀬自然解説ガイド養成研修会講師	尾瀬保護財団	平成 22 年 9 月 18 日	大森威宏
「嬬恋の森林（自然）と生物多様性の可能性を語る」シンポジウムパネラー	「嬬恋の森林と生物多様性の可能性」シンポジウム実行委員会	平成 22 年 10 月 24 日	大森威宏
第 12 回尾瀬フォーラムにおける講演	尾瀬保護財団・NHK 前橋放送局	平成 22 年 12 月 17 日	大森威宏
「莎草研究」論文査読	すげの会	平成 23 年 2 月	大森威宏
平成 22 年度友の会講演会	群馬県立自然史博物館友の会	平成 22 年 5 月 23 日	木村敏之
特別公開記念講演会「群馬で発見された新しいクジラ『ジョウモウクジラ』について」	岩宿博物館	平成 22 年 5 月 30 日	木村敏之
出前なんでも講座「群馬に海があった頃」（明寿大学）	前橋市中央公民館	平成 22 年 8 月 9 日	木村敏之
「Natural Scince」誌論文査読	Scientific Research Publishing	平成 22 年 8 月	木村敏之
鳥獣保護員委嘱式に係わる講演会講師	群馬県庁	平成 22 年 4 月 14 日	姉崎智子
青山学院大学・博物館実習講師「学芸員の業務について」	自然史博物館・学習室	平成 22 年 8 月 13 日	姉崎智子
小学校理科新指導要領導入に伴う研修会講師：動物の解剖を通して学ぶ「からだのつくり」	群馬県総合教育センター	平成 22 年 8 月 18 日	姉崎智子
「Zoological Science」誌論文査読	日本動物学会	平成 22 年 5 月	姉崎智子
「African Journal of Biotechnology」誌論文査読	Academic Journals	平成 23 年 2 月	姉崎智子
文化（化石）講演会「5 億年前から生きていた貝形虫～小さな化石が語る金生山の古環境～」	大垣市教育委員会	平成 23 年 2 月	田中源吾
かぶら理科露頭調査（高瀬・額部地区）講師	かぶら理科研究会	平成 23 年 2 月 26 日	田中源吾

かぶら理科露頭調査（吉田・妙義地区）講師	かぶら理科研究会	平成 23 年 3 月 21 日	田中源吾
日本古生物学会誌「化石」査読	日本古生物学会	平成 22 年 9 月	田中源吾
英国王立協会紀要「Proceedings B」査読	英国王立協会	平成 23 年 3 月	田中源吾

3　職員の論文発表等

(1)　論文等

職・氏名	論　　題	発表誌	発表年
名誉館長 長谷川善和	A remarkable case of a shark-bitten elasmosaurid plesiosaur (K. Shimada, T. Tuihiji, T. Sato, and Y. Hasegawa)	Journal of Vertebrate Paleontology 30(2):592-597	2010
	日本における後期更新世～前期完新世産のオオヤマネコ *Lynx* について(長谷川善和・金子浩昌・橘麻紀乃・田中源吾)	群馬県立自然史博物館研究報告, (15):43～80	2011
	広島県庄原市の中新統備北層群より新たなヒゲクジラ類化石の産出(木村敏之・長谷川善和・大澤仁・山岡隆信・上田隆人・木吉智美・古川義雄・杉原正美)	群馬県立自然史博物館研究報告, (15) :81～92	2011
	化石の骨や, おもいつくままに(長谷川善和)	ANIMATE 通信第 15 号	2011
主幹　金井 英男	群馬県で発見されたニホンオオカミ遺骸(小山宏・茂原信生・石黒直隆・金井英男)	群馬県立自然史博物館研究報告, (15) :167～170	2011
	長野原・東吾妻町地域調査 (7)大型菌類(金井英男)	群馬県立自然史博物館自然史調査報告書第 5 号	2011
主幹 大森　威宏	日本新産帰化植物キヌイトツメクサ（ナデシコ科）	植物研究雑誌 85:192-194.	2010
	ミチノクホタルイの分布南限と生育立地	植物研究雑誌 85:373-376.	2010
	群馬県から 2010 年に新たに記録された維管束植物	群馬県立自然史博物館研究報告, (15) :161～165	2011
	長野原・東吾妻町地域調査（5)高等植物（大森威宏・増田和明・里見哲夫）	群馬県立自然史博物館自然史調査報告書第 5 号	2011
主幹(学芸員) 髙桒 祐司	群馬県桐生市の足尾帯からクテナカントゥス類（軟骨魚類）の新産出（髙桒祐司・岡部勇）	群馬県立自然史博物館研究報告, (15) :153～159	2011
	群馬県沼田市の岩室層（下部ジュラ系）からアクロドゥス科サメ類の新産出（髙桒祐司・群馬古生物研究会）	群馬県立自然史博物館研究報告, (15) :147～152	2011
	アメリカ・サウスダコタ州ヘルクリーク層産トリケラトプス *Triceratops*（Ceratopsia:Ceratopsidae）の新標本の報告および骨格要素の癒合状態の報告（英文／藤原慎一・髙桒祐司)	Bulletin of Gunma Museum of Natural History, (15) :1～17	2011
	山中層群の研究　1 調査研究の概要（髙桒祐司・佐藤和久・木村敏之・久保田克博）	群馬県立自然史博物館自然史調査報告書第 5 号	2011

	山中層群の研究　2調査研究の成果(1)調査地点の地質（髙桒祐司・佐藤和久・木村敏之・久保田克博）	群馬県立自然史博物館自然史調査報告書第5号	2011
	山中層群の研究　2調査研究の成果(2)試掘による産出標本の概要（髙桒祐司・佐藤和久・木村敏之・久保田克博）	群馬県立自然史博物館自然史調査報告書第5号	2011
	山中層群の研究　2調査研究の成果(3)石堂層から産出したカグラザメ科の歯化石（髙桒祐司・佐藤和久・木村敏之・久保田克博）	群馬県立自然史博物館自然史調査報告書第5号	2011
	山中層群の研究　2調査研究の成果(4)瀬林層産出のパキコルムス科と考えられる魚類の歯化石（久保田克博・髙桒祐司・佐藤和久・木村敏之）	群馬県立自然史博物館自然史調査報告書第5号	2011
	長野県信濃町の上部更新統野尻湖層からヘラジカ化石の初めての産出.（野尻湖哺乳類グループ、筆頭執筆担当者）	地球科学 64:219-233.	2010
	第17次野尻湖発掘で産出した脊椎動物化石.（野尻湖哺乳類グループ、執筆担当者）	野尻湖ナウマンゾウ博物館研究報告 18: 33-50.	2010
副主幹　杉山直人	長野原･東吾妻町地域調査 (4)軟体動物(陸産貝類･淡水産貝類)(杉山直人)	群馬県立自然史博物館自然史調査報告書第5号	2011
主任(学芸員) 木村 敏之	長野原･東吾妻町地域調査 (1)小型哺乳類(木村敏之)	群馬県立自然史博物館自然史調査報告書第5号	2011
	山中層群の研究　1調査研究の概要（髙桒祐司・佐藤和久・木村敏之・久保田克博）	群馬県立自然史博物館自然史調査報告書第5号	2011
	山中層群の研究　2調査研究の成果(1)調査地点の地質（髙桒祐司・佐藤和久・木村敏之・久保田克博）	群馬県立自然史博物館自然史調査報告書第5号	2011
	山中層群の研究　2調査研究の成果(2)試掘による産出標本の概要（髙桒祐司・佐藤和久・木村敏之・久保田克博）	群馬県立自然史博物館自然史調査報告書第5号	2011
	山中層群の研究　2調査研究の成果(3)石堂層から産出したカグラザメ科の歯化石（髙桒祐司・佐藤和久・木村敏之・久保田克博）	群馬県立自然史博物館自然史調査報告書第5号	2011
	山中層群の研究　2調査研究の成果(4)瀬林層産出のパキコルムス科と考えられる魚類の歯化石（久保田克博・髙桒祐司・佐藤和久・木村敏之）	群馬県立自然史博物館自然史調査報告書第5号	2011
	広島県庄原市の中新統備北層群より新たなヒゲクジラ類化石の産出(木村敏之・長谷川善和・大澤　仁・山岡隆信・上田隆人・木吉智美・古川義雄・杉原正美)	群馬県立自然史博物館研究報告，(15) :81～92	2011

主任（学芸員） 姉崎 智子	Mixed infestation of Sarcoptic mange and *Demodex* sp. on an Asian black bear (*Ursus thibetanus*) in Gunma Prefecture.（Anezaki, T. , Sakaniwa, H., Nakayama, H., Abe, Y., Takizawa, K., Higuchi, A.）	群馬県立自然史博物館研究報告，(15):171～173	2011
	群馬県太田市八王子丘陵において捕獲されたメスのイノシシの胃・腸内容物と利用生息環境（姉崎智子，高山広規，坂庭浩之，石田忠義）	群馬県立自然史博物館研究報告，(15):137～145	2011
	ハクビシンの犬歯に形成されるセメント質年輪と頭蓋骨，四肢骨，寛骨癒合状況の関係（永山 雅，姉崎智子）	群馬県立自然史博物館研究報告，(15):181～187	2011
	群馬県に生息するニホンイノシシの DNA 解析 －2－（高橋 遼平，石黒 直隆，姉崎智子，本郷一美）	群馬県立自然史博物館研究報告，(15):129～136	2011
	野生ツキノワグマにおけるケタミン・キシラジン麻酔にの応用について（坂庭浩之，中山寛之，姉崎智子，片平篤行）	群馬県立自然史博物館研究報告，(15) :175～179	2011
	Origin and founder effects on the Japanese Masked Palm Civet *Paguma larvata* (Viverridae, Carnivora), revealed from a comparison with its molecular phylgeography in Taiwan. (Masuda, R., Lin, L-K., Pei, K. J-C., Chen, Y-J., Chang, S-W., Kaneko, Y., Yamazaki, K., Anezaki, T., Yachimori, S., Oshida, T.)	Zoological Science, 27: 499-505	2010
	Genetic diversity within the Japanese badgers (*Meles anakuma*), as revealed by microsatellite analysis. (Tashima, S., Kaneko, Y., Anezaki, T., Baba, M., Yachimori, S., Masuda, R.)	Mammal Study, 35: 221-226.	2010
	群馬県におけるツキノワグマの食性	群馬県野生動物調査・対策報告会要旨集 2010	2011
主任(学芸員) 田中 源吾	Reclassification of the genus *Hemicytherura* (Crustacea, Ostracoda) from Japan and the surrounding regions. (Tanaka, G., Kaseda, Y. and Ikeya N.)	群馬県立自然史博物館研究報告，(15) :19～42	2011
	安中市松井田町中瀬の新第三紀層．（小林二三雄，角田寛子，矢島博，田中源吾）	群馬県自然環境調査会報告書	2011
	Cambrian Orsten lagerstätte from the Alus Shale Formation: Fecal pellets as a probable source of phosphorus preservation. (Maeda, H., Tanaka, G., Shimobayashi, N., Ohno, T. and Matsuoka, H.)	Palaios, 26	2011
	例外的に保存された節足動物の眼の化石とその復元．（田中源吾）	化石研究会会誌，43: 21-29	2010

	Taxonomic evaluation of various morphological characters in the Late Cretaceous desmoceratine polyphyletic genus "*Damesites*" from the Yezo Group in Hokkaido and Sakhalin. (Nishimura, T., Maeda, H., Shigeta, Y. and Tanaka, G.)	Paleontological Research, 14: 33-55	2010

(2) 学会等発

表

職・氏名	発　　表　　題	学会名等	発表年
主幹 大森 威宏	ミチノクホタルイの分布と植生学的位置づけ（予報）（大森威宏）	第 21 回すげの会全国大会（於鳥取）	2010.5.22
	群馬県中西部における絶滅危惧雑草・ミゾコウジュとコギシギシの分布の現状（大森威宏）	第 13 回自然系調査研究機関連絡会議（NORNAC)（於名古屋）	2010.10.21
主幹(学芸員) 髙桑祐司	Possible Pachycormid Teeth from the Sebayashi Formation of Kanna, Gunma Prefecture, Japan. (Kubota, K., Takakuwa, Y., Sato, K. and Kimura, T.)	日本古生物学会 2010 年年会 (於 筑波大学)	2010.6.13
主任(学芸員) 木村敏之	クジラ類の形態と生態戦略（木村敏之）	化石研究会第 134 回例会シンポジウム（於 群馬県立自然史博物館）	2010.11.6
	Evolutionary insights from the genetic diversity of Asama virus in the Japanese shrew mole (*Urotrichus talpoides*)(新井 智・永野昌博・浅川満彦・木村敏之・近真理奈・多屋馨子・森川茂・岡部信彦・Richard Yanagihara)	日本ウイルス学会学術集会(於徳島県郷土文化会館)	2010.11.7-9
主任(学芸員) 姉崎智子	ニホンザル骨形態における地理的変異の検討	神奈川県立生命の星・地球博物館共同利用研究報告会	2010.4
	A Morphometric analysis of the Japanese macaque (*Macaca fuscata*) teeth from archaeological sites, Japan.(T. Anezaki, H. Hongo, N. Shigehara, M. Takai)	International Primatological Society Congresses (於 京都大学)	2010.9.12-9.18
	Size variations of the Japanese macaque molars discovered from the Late Pleistocene to Holocene.(Y. Nishioka, M. Takai, T. Anezaki)	International Primatological Society Congresses (於 京都大学)	2010.9.12-9.18
	群馬県におけるツキノワグマの食性(予報)(姉崎智子, 坂庭浩之)	日本哺乳類学会 2010 年大会（於 岐阜大学）	2010.9.17-9.20
	群馬県におけるニホンザルの分布の変遷(坂庭浩之, 姉崎智子, 上原貴夫)	日本哺乳類学会 2010 年大会（於 岐阜大学）	2010.9.17-9.20
	過去の遺産で喰う	日本哺乳類学会 2010 年大会自由集会:鳥獣で喰う －研究を職業とするための錬金術－	2010.9.17-9.20

		（於 岐阜大学）	
	Did prehistoric man really introduce domestic pigs into Ryukyu Islands? (Takahashi, R., Hongo, H., Anezaki, T., Matsui, A., Ishiguro, N.)	2010 International ICAZ conference (於 Paris)	2010.8.23-8.28
	Season of birth and reproductive performance of wild boars (*Sus scrofa*) in Gunma Prefecture, Japan. (Anezaki, T., Sakaniwa, H.)	2010 International ICAZ conference (於 Paris)	2010.8.23-8.28
	赤城山におけるシカ個体数調整と植生被害防止対策（姉崎智子，坂庭浩之，大森威宏）	第 13 回自然系調査研究機関連絡会議（於 名古屋）	2010.10.21-20.22
主任（学芸員） 田中源吾	神奈川県追浜の完新世ボーリングコア試料から発見されたオストラコーダのミイラ（田中源吾・松島義章・前田晴良）	日本古生物学会 2010 年年会（於 筑波大学）	2010.6.12

(3) 著書・訳書

氏　名	書　誌　題	発　行　所	発表年	備考
主幹　大森威宏	生物学辞典	東京化学同人	2010	分担執筆
主任（学芸員） 木村敏之	The Evolutionary History and Phylogenetic Relationships of the Superfamily Platanistoidea (Barnes, L. G., Kimura, T. and Godfrey, S.)	In Ruiz-Garcia, M. and Shostell, J. M. eds. Biology, Evolution and Conservation of River Dolphins within South America and Asia, Nova Publishers, New York, USA.	2010	分担執筆
主任(学芸員) 姉崎智子	群馬県の猪土手ーチーム「ししどって」の調査から	「日本のシシ垣」古今書院	2010	分担執筆
主任（学芸員） 田中源吾	カンブリア爆発その１　多種多様な生物が突然出現した．（大野照文，遠藤一佳，田中源吾）	ニュートンムック別冊，30-43	2010	分担執筆
	カンブリア爆発その２　微生物界でも”大爆発”はおきていた．（田中源吾，ディエター・ワロセック，アンドレア・マース，ヨアヒム・J・ハウク）	ニュートンムック別冊，44-51	2010	分担執筆

(4) その他（自然史に関する解説や意見のマスコミ等への発表・表彰など）

氏　名	論　題	発表誌／発行所	発表年	備考
補佐（学芸係長） 三田照芳	検証「自然と恵み」県内生態系に危機 検証「自然と恵み」変わりゆく里山 検証「自然と恵み」増えるイノシシ 検証「自然と恵み」特定外来生物の侵入 検証「自然と恵み」認知から行動へ	上毛新聞	2010.10.11 2010.10.13 2010.10.14 2010.10.15 2010.10.16	
	ぐんまちゃんのご存じですか？57 「海水はなぜ塩辛いの？」	ぐんま広報 No.262 2011.3 ／ 群馬県広報課	2011.3.1	

主幹　大森威宏	前橋市自然環境基礎調査にともなうイトイバラモの記録	読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、産経新聞、上毛新聞	2011.2	
主幹（学芸員） 髙桒祐司	博物館だより　群馬県立自然史博物館 第36回企画展「石になったものの記録」	日本地質学会 News13(10):8	2010.10.15	
	第134回化石研究会例会の報告	化石研究会誌 43: 114-115.	2011.1	
主任(学芸員) 木村敏之	群馬県業績職員（知事表彰）		2011.3	表彰
主任(学芸員) 姉崎智子	ぐんまちゃんのご存じですか? 「動物はみんな汗をかくの?」	ぐんま広報 9月号／群馬県広報課	2010.9	
主任(学芸員) 田中源吾	Zoological Science Award	日本動物学会（2010年度論文賞）	2010.6.23	表彰

4　視察受入

番号	受入日	団体名	人数
1	4月16日	板橋区教育委員会	61
2	4月22日	東久留米市教育委員会	22
3	4月24日	練馬区教育委員会	80
4	5月6日	目黒区教育委員会	24
5	5月13日	中野区教育委員会	25
6	5月14日	清瀬市内小学校	12
7	5月28日	文京区教育委員会	26
8	7月22日	板橋区教育委員会	27
9	8月27日	千代田区教育委員会	20
合計人数			297

５　来館者アンケート集計結果

実施日：8/1（日）8/7（土）8/8（日）8/13（金）8/16（月）8/19（木）10/11（月）
11/14（日）11/20（土）の計 9 日間　回答数：117 人（男 71 人女 46 人）（数値は%）

来館者データ

住　所	
群馬県	73.5
埼玉県	12.0
千葉県	3.4
長野県	2.6
神奈川県	2.6
東京都	1.7
栃木県	1.7
その他	2.5

誰と来た	
家族で	82.0
友達と	7.7
団体で	9.4
一人で	0.9
その他	0.0

どんな目的で	
常設展を	30.8
企画展を	7.7
両方を	40.2
その他	21.0

博物館について

何で知ったか	
家族や友達	40.2
幼･保･学校できたことがある	20.5
その他の雑誌	7.7
ポスターチラシ	6.8
インターネット	5.1
テレビ	3.4
るるぶ群馬・まっぷる群馬	2.6
その他	13.7

来館数	
初めて	28.2
２～４回	35.0
５回以上	36.8

職員の対応	
良かった	85.5
ふつう	14.5
よくなかった	0.0

館の施設	
良かった	96.6
ふつう	3.4
よくなかった	0.0

展示について

当館の展示は	
良かった	95.7
ふつう	3.4
よくなかった	0.9

６ 学校アンケート集計結果

アンケート提出校 236 校（県内 92 校・県外 144 校）

（数値は%）

学校の所在	
県内	39.0
県外	61.0
東京	31.4
埼玉	22.5
長野	5.5
千葉	1.3

来館した学年				
小1	2.8	中1	5.3	特別支援　3.5
小2	2.8	中2	3.5	
小3	10.9	中3	1.8	
小4	21.5	高1	0.7	
小5	33.8	高2	1.4	
小6	11.3	高3	0.7	

神奈川　0.4	

見 学 時 間（滞在時間）	
～1時間以下	21.2
１時間～１時間30分以下	19.8
１時間30分～２時間以下	20.3
２時間～２時間30分以下	17.1
２時間30分～３時間以下	12.6
３時間～３時間30分以下	3.6
３時間30分～	5.4

学校としての来館数
初めて　19.1　　来館したことがある 80.9
館情初めて来館した人の当報源
前の学校で来館　29.4
他の先生から聞いた　21.6
個人的に来館　19.6
ホームページ 19.6 旅行会社から聞いた　5.9
当館のチラシ　3.9

来館の観点
展示の内容（学習効果等）　59.8
コースの設定（学校からの距離、旅行目的地の途上にある等）　32.1
上記の両方　8.1

当館以外の目的場所		
他にも目的場所がある　81.4	当館のみである18.6	
「他にも目的場所がある」学校の目的場所		
長野方面　21.7	榛名方面（榛名山、榛名湖、伊香保グリーン牧場等）　15.5	
富岡製糸場　14.2	群馬サファリパーク　10.2	富士重工矢島工場　10.2
群馬県庁　5.8	県立歴史博物館　2.7	鉄道文化村　1.8
高崎少年科学館　1.8	その他　16.1	

今後の当館利用希望	
あり 100	なし 0

８　職員名簿

職　　名		氏　　名	当館における履歴
名誉館長（嘱託）		長谷川　善和	7.4～　8.3 建設準備室参与 8.4～　22.3 館長 22.4～ 名誉館長
館　　長		佐藤　幹夫	16.4～22.3 副館長 22.4～23.3 館長
次　長（教育普及係長）		石橋　陸夫	22.4～23.3
教育普及係	主幹（係長）	清水　伸彦	14.4～
	主　　幹	有賀　章晶	22.4～
	主　　幹	上原　久志	15.4～23.3
	主　　幹	高橋　秀武	20.4～
	主　　幹	岩井　利信	22.4～
	主　　幹	武井　郁也	18.4～
学芸係	補佐（学芸係長）	三田　照芳	13.4～20.3 指導主事 22.4～
	主　　幹	金井　英男	17.4～23.3
	主　　幹	高橋　克之	12.4～
	主　　幹	大森　威宏	10.4～
	主幹（学芸員）	髙栗　祐司	5.4～8.3 建設準備室主事 8.4～
	副　主　幹	杉山　直人	20.4～
	主任（学芸員）	木村　敏之	14.4～
	主任（学芸員）	姉崎　智子	17.4～
	主任（学芸員）	田中　源吾	20.12～

嘱託

展示解説員	高橋　弘美　外所　宏美　菅野　文華（～12 月）　羽田　恭子 菊地　如子　佐藤　陽子　高橋　智子（～9 月）　近藤　愛子 佐々木尚子（10 月～）
資料整理員	齋藤佳代子